

沖冠
著

十八史略譯解

九

特31

732

館誌書會育教本日大			
室		第	二
一	五		二
二	四	五	九
冊	號	架	函

共十二冊
一冊

特31
732

沖冠嶺正脩編輯

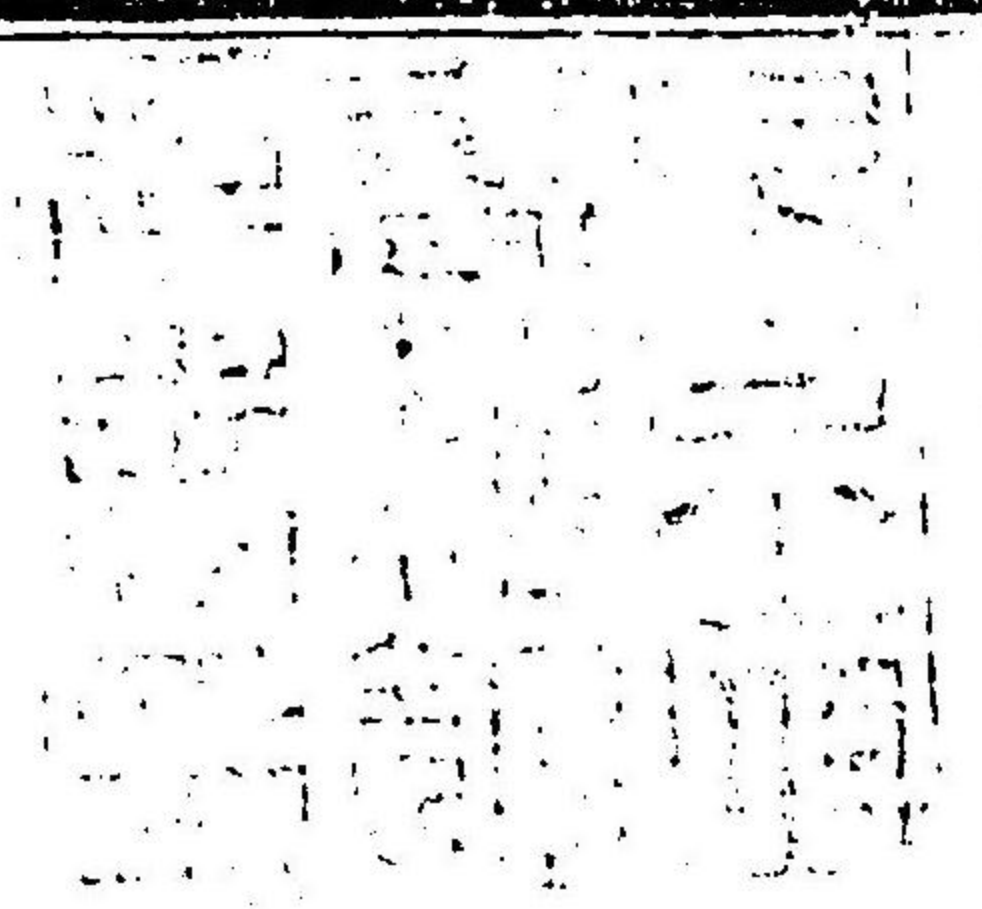
鼇頭
畫
十八史畧譯解

東京

敬業堂藏版

沖冠嶺著十八史畧譯解卷之九

東京 冠嶺沖正修編輯



真宗皇帝初ノ名ハ元侃、襄王ニ封セラ

ル、舉人楊礪アリ、嘗テ夢ニ一大殿ニ

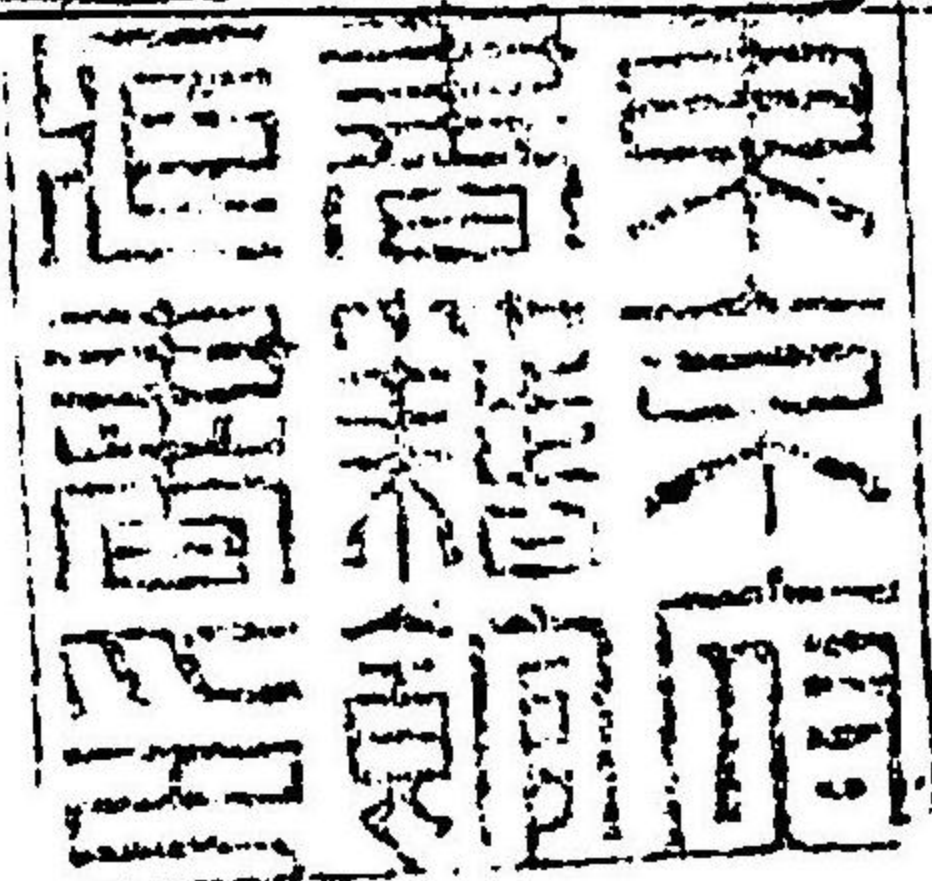
至テ殿上ニ坐スル者アリ、之ニ語テ

曰ク、我ハ汝カ主ニ非ス、来和天尊ハ、

汝カ主ナリト、指示メ之ニ謁セシム、

礪後ニ進士第一タリ、入テ襄王府ノ

特31
732



沖冠嶺著十八史略譯解卷之九

東京 冠嶺沖正修編輯

〔真宗皇帝〕初ノ名ハ元侃、襄王ニ封セラ
ル、舉人楊礪アリ、嘗テ夢ニ一大殿ニ
至テ殿上ニ坐スル者アリ、之ニ語テ
曰ク、我ハ汝カ主ニ非ス、来和天尊ハ、
汝カ主ナリト、指示ノ之ニ謁セシム、
礪後ニ進士第一タリ、入テ襄王府ノ

楊延朗善戰圖



○楊延朗、智勇ニノ善ク戦フ、團練使
 フ加ヘラル、虜之ヲ憚リ、目メ楊六郎
 ト曰フ○景德元年、契丹主、其母蕭氏
 ト大舉メ入寇ス、中外震駭ス、參政陳
 堯叟ハ蜀人ナリ、蜀ニ幸センヲ請フ、
 王欽若ハ江南ノ人ナリ、江南ニ幸セ
 シヲ請フ、上、以テ宰相寇準ニ問フ、準
 問フ誰カ此ノ策ヲ畫スルト上曰ク、
 卿姑ラク其可否ヲ断セヨ、問フ勿レ
 ナリト、準カ曰ク、臣、策ヲ献スルノ臣
 フ得テ斬テ以テ鼓ニ擊テ然メ後ニ

楊延朗弘簡録
 昭更名ス、即
 十楊六郎姓
 鼓ニ血ヲ取テ
 殺シテ戰鼓ニ塗テ
 以テナリ
 ルヲ駐マ車駕
 暫止マフ
 ムト曰フ
 方賛河ヲ渡ル
 ノ策ヲ贊成ス
 猶豫ヲ疑意決セ
 サルヲ謂フナ
 リ、顔氏家訓ニ
 猶ハ犬ノ子ナ
 リ、人ノ好テ預
 行ク、犬ノ前ニ
 メ人ヲ待テ得
 ス、又來テ迎ヘ

北伐セント欲スルノミト、遂ニ親征キ
 ノ議ヲ定ム、上、蹕ヲ韋城ニ駐ム
 州ニ屬ス、開州ハ古ノ澶淵ナリ、宋史地理志
 ニ、開州、河北尋テ衛南ニ至ル、澶州ニ
 屬ス、宋史、宋元通鑿ニ、並ヒ云フ、澶州
 ノ南、城ニ至ルト、蓋シ衛南ニ抵ル、三面ヲ
 リ契丹、兵ヲ擁メ、澶州ニ抵ル、三面ヲ
 圍合ス、李繼隆等、出テ、之ヲ禦ク、契
 丹ノ撻覽、統軍順弩ニ中テ死ス、大ニ
 挫テ退却ス、敢テ動カス、寇準、力テ上
 ヲ勸テ河ヲ渡ラシム、殿前帥高瓊モ
 亦力テ贊ク、猶豫ノ間、瓊、衛士ヲ麾テ

候フ、此ノ如ク
 往還スルノ終
 日ニ至ル、斯レ
 乃チ豫ソ、未タ
 定ラサシ、未タ
 ルニハシ、未タ
 故ニ猶豫トナリ、
 ス百姓考妣云々
 百ハ、此レ河
 北ノ姓、曲礼
 二、生父ト曰
 二、母ト曰、死
 ト考ト曰、死
 日怒テ曰、云
 瓊怒テ曰、云
 以テ瓊用ヒテ
 故ニ瓊ノ怒言
 此ノ如ク

輩ノ進テ曰久、陛下若シ河ヲ過スレ
 八、百姓考妣ヲ喪スルカ如クセント、梁
 適、之ヲ呵カス、瓊怒テ曰久、君カ輩、此ノ
 時、尚ヲ人ノ失礼ヲ責ム、何ソ一詩ヲ
 賦メ虜ヲ退ケサルヤト、遂ニ上ヲ擁
 メ以テ渡ル、既テ澶州ニ至ル、既
 ノノ北、城ニ至ルナリ、蓋シ澶州ノ地、北
 州ノ方、黄、河ニ跨ルナリ、蓋シ澶州ノ地、北
 二、決ス、北流断ル、神宗熙寧十年、河、澶、分
 二、テ入リ、一ハ海ニ入ル、北城ニ登テ、黄
 旗幟ヲ張ル、諸軍皆ナ万歳ト呼フ、聲
 數十、里ニ聞ユ、契丹、氣奪ハル、是ヨリ
 賦メ虜ヲ退ケサルヤト、遂ニ上ヲ擁

高瓊上ヲ擁シ北城ニ登旗幟ヲ張ル圖



先キ王繼忠ト云者、虜ニ陷ル、嘗テ和
 好ノ利ヲ言フ、故ニ大舉ト雖モ亦使
 ヲ遣ノ繼忠カ書ヲ以テ来ラシム、上
 曹利用ニ命メ之ニ報ス、是ニ至テ、利
 用、契丹ノ使者韓杞ト偕ニ来ル、世宗
 ノ取ル所ノ関南ノ故地ヲ請フ、初ノ地
 晋主石敬瑭、契丹ニ請フテ共ニ唐ヲ
 滅ス、幽、蓟、十六州ヲ割テ之ニ與フ、
 後周ノ世宗、契丹ヲ伐チ、瓦橋、関、益、上
 津、関、以南、瀛、莫、易、州ノ地ヲ取ル、
 ノ曰ク、地ハ必ス得ヘカラス、寧ロ金
 帛ヲ與ヘ以テ和セント、準ガ意亦與
 フ欲セス、且ツ策ヲ畫メ以テ進テ曰

百萬緡百萬匹
銀百萬兩

ク、此ノ如クナラハ則チ百年ノ無事
ヲ保ス可シ、然ラスニハ數十歳ノ後、
我復心ヲ生セント、準、蓋シ之ヲ撃テ
隻輪ヲメ返サラシメント欲ス、上ノ
曰ク、數十歳ノ後、當ニ能ク之ヲ禦ク
者アルヘシ、吾生靈ノ重テ困ニ忍ヒ
ス、姑ク其和ヲ聽セト、遂ニ再ヒ利用
ヲノ往カシム、利用、歳ニ賂ノ金帛ノ
數ヲ請フ、上ノ曰ク、必ス已ムヲ得ス
ニハ、百萬ト雖モ亦可ナリト、準、召テ
之ニ語テ曰ク、勅旨アリト雖モ、三十

朝七ニ命ノ云
命ノ出テ諸州
シノ軍ニ知ラ

万ニ過ルヲ得ス、如シ此ノ數ヲ過キ
ハ、來テ準ヲ見ル勿レ、準、汝ヲ斬ラシ
ト、利用率ニ約二十万、銀十方ヲ以テ
和議ヲ定ム、南朝ヲ兄ト為シ、北朝ヲ
弟ト為シ、交誓約シ各兵ヲ解テ歸ル
準、初ノ京師ヲ發スルトキ、朝士ニ命
メ出テ、諸州ヲ統御セシム、皆殿廊ニ
於テ、勅ヲ受ケシム、之ヲ戒テ曰ク、百
姓ハ皆ナ兵、府庫ハ皆財ナリ、汝ニ浪
リニ戰ヲ責メス、但一城一壁ヲ失セ
ハ、當サニ軍法ヲ以テ責ニ從フ可シ

天雄軍河西北魏
博其軍唐
代宗其軍唐
孤注博博者
錢賭博者
注曰博者
輸有盡所
ノ有ル所
孤注之出
ハ敗レト
復之レト
ナシニ
度使符彦
時魏博節
吏按博節
語乃上
ス乃テ
シ往テ
ハ晋王ノ
符彦卿
夫彦卿

ト、欽若カ親征ノ議ヲ沮シテ恐ル其
智アリ且ツ福アルヲ以テ、欽若ヲ出
ノ天雄軍ヲ知セシム、契丹城下ニ至
ル、欽若門ヲ閉チ手ヲ束テ策ナシ、
ヲ修シ、經ヲ誦スルノ上、澶淵ヨリ
還ル澶淵澶州古ハ準ヲ待スル極テ
厚シ、欽若歸テ深ク準ヲ恨ム、嘗テ朝
ヨリ退ク上、準ヲ目送ス、欽若進テ曰
ク、陛下準ヲ敬ス、其社稷ノ功アル為
ノヤ、城下ノ盟ハ、春秋ニ小國タモ取
ル所ナリト、城下ノ盟ハ、他國米リ伐
レ

ノ父大ニ用
レス但彦卿
至ル二彦卿
家僮二人勢
挾ム罪ヲ決
配彦卿又力
テ彦卿罪ナ
キヲ保シ極
ス當ニ保シ
無辜ヲ救フ
以テ戒ト為
ハシト帝怒
華州安帝置
二郎且カ行
ナ

已ムヲ得スノ和ノ之ト盟フヲ謂フ
ナリ、春秋ノ時、小國ト雖モ之ヲ耻ハ
今河ヲ渡リ契丹ヲ逐テ之ヲ耻ハ
本ト耻ツ可キニ非ス、但欽若言フ託
欺クノ帝ヲ上、然タリ、欽若毎ニ曰
ク、澶淵ノ役ニ、準、陛下ヲ以テ孤注ト
為ス、亦危シト、上、準ヲ待スル遂ニ寢
薄シ、尋テ相ヲ罷ム、王且ヲ以テ同平
章吏トス、且ハ王祐ノ子ナリ、太祖嘗
テ祐ヲ遣レ吏ヲ按セシム、謂ク、祐、還
ヲハ王博カ官職ヲ與ント、祐、太祖ノ
意ニ徇ハス、竟ニ大ニ用ラレス、祐カ
曰ク、祐、做ラス、兒子二郎、必ス做ラシ

三公云々外朝
ノ三公ノ位ニ
槐ヲ前ニ植ユ
周礼ニ二槐ニ
面ノ三公位ス

ト、手ツカラ三槐ヲ庭ニ植テ曰ク、吾
カ後世必ス三公ト為ル者アラント、
是ニ至テ、且果ノ相ト為ル、深沉ニノ
徳望アリ、能ク大事ヲ断ス、上ノ心、深
ク之ニ属ス、趙徳明、嘗テ民ノ饑タル
ヲ以テ、表ヲ上テ糶ヲ乞フ、群臣皆ナ
之ヲ責ント請フ、且カ曰ク、臣、徳明ニ
詔セント欲ス、云ク、塞上々儲糧ハ與
フ可ラス、已テニ京師ニ於テ百万ヲ
積ム、自ラ衆ヲ遣シ来リ取ル可シト、
徳明、再拜ノ詔ヲ受テ曰ク、朝廷ニ人

欽若カ言ヲ入
テ云々其準
ル諧ルノ言ヲ

下ノ盟ヲ謂フ
車ヲ刷ハシ城

アリト、上、既ニ欽若カ言ヲ入レテ數
欽若ニ問フ、何ヲ以テカ耻ヲ刷ハシ
ト欽若、上ノ兵ヲ用ユルヲ厭フヲ知
テ諺ヲ曰ク、澠、薊ヲ取ラハ、乃チ可ナ
リト言ハ、陸下兵ヲ以テ澠、薊ヲ取
其次ヲ思ハシム、乃チ請フ封禪メ以
テ四海ヲ鎮服メ、夷狄ニ誇示セント
又言フ、封禪ハ、當サニ天端ヲ得テ然
メ後ニ可ナルヘキノミ、天端安ソ必
ス得ヘケン、前代、蓋シ人カヲ以テ之
ヲ為ス者アリ、惟人主、信メ之ヲ崇奉

河圖說太昊禹水見二洛書禹水文ヲ治ル時神龜リ九負フ數ア而メ洛ニ出ツ禹遂ニ文ヲ別テ以テ洪範九疇ト為ス神道ト至神故ニ道ハ神道ト云偽年祥符四降ル作テ

、以テ明ニ天下ニ示セハ、則チ天端ト異ナルナキナリ、河圖洛書、果々此アランヤ、聖人神道ヲ以テ教ヲ設ルノミト、是ニ於テ、大中祥符ヨリ以來數、天書アリテ降ル真宗記ニ汀州ノ命、授ル康ニ于テ道人ニ遇フ、姓ハ趙氏ト、授ル真宗承珪、其ノ事而メ祥ノ東ノ方泰山ヲ封ス、西ノ方后土ヲ汾陰ニ祀ル、又趙氏ノ祖九天司命天尊アリテ降ル宋鑿ニ、太中祥符五年、聖祖降趙ノ曰祖再ヒ人降ル、乃チ軒轅黃帝、後

陰水北ヲ、陰ト曰フ祖ノ名玄朗ヲ諱ム天ノ下ニ諱ヲメ聖祖ノ元ト諱玄ヲ避テ、明ト諱為ス、玉清昭應為ス、昭應ト諱宮ノ書ヲ奉スル天ノ官ナリ、本ト昭應ト玉清ノ字ニ加フ

唐ノ時、七月一日、復降テ、趙氏ノ族生ムト、上ニ謂テ曰ク、善ク蒼生ヲ育シ、前志ヲ忘ル、命保生天尊ト曰ス、聖祖后ト曰フ、元天、命保生天尊ト立ツ、大聖后ト曰フ、天下天慶觀ヲ立ツ、聖祖殿ヲ置ク、聖祖ノ名玄朗ノ諱ム、京師、玉清昭應宮ヲ作ル、且其吏ヲ止ル能ハス、○上、在位二十六年、元年ニ呂端罷ラレテヨリ後、張齊賢、李沆、呂蒙正、向敏中、畢士安、寇準、王旦、相繼テ相ト為ル、惟、且、位ニ居ル十一年、李沆カ相ト為シ時ニ當テ、且、甫メテ參政タリ、沆、論語ヲ讀ムヲ喜ム、嘗テ曰ク、

宰相ト為ル、論語中ノ用ヲ節メ而ソ
 人ヲ愛シ、民ヲ使フニ時ヲ以テスト
 云フ兩句ノ如キ、尚ヲ行フ能ハス、聖
 人ノ言、終身之ヲ誦メ可ナリト、沈、日
 ヲニ四方ノ水旱盜賊ヲ取テ、之ヲ奏
 ス、且カ謂ク、細吏ナリ、上ノ聽ヲ煩^ヒス
 足ラズト、沈カ曰ク、人主少年ナリ、當
 サニ人間ノ疾苦ヲ知ラシムヘシ、然
 ラスニハ血氣方^ニ剛シ、意ヲ聲色犬
 馬ニ留メスニハ、則チ土木甲兵禱祠
 ノ事作^ラシ、吾老タリ、見ルニ及ハス

〔文靖〕李沈〔文靖〕
 公ト謚ス〔遺令〕
 髮ヲ削リ、緇^ノ如
 披シ、僧禮^ノ後
 クヒヨ馮道^ノ後
 唐ノ相、可否
 ル所ナシ

此參政他日ノ憂ナラント、太中祥符
 ニ及テ、封禪祠祀土木並興ル、且乃チ
 歎メ曰ク、李文靖ハ、真ノ聖人ナリト、
 大礼アルコトニ、且、輒チ首相ナルヲ
 以テ、天書ヲ奉メ以テ行ク、常ニ悒々
 トメ樂マズ、去ント欲スレハ則チ上
 之ヲ遇スル厚シ、位ニ薨スルニ及テ、
 遺令スラク、髮ヲ削リ緇ヲ披シ、以テ
 歎セヨト、議者謂ク、且、君ヲ得タリ、而
 ルニ正ヲ以テ自ラ終ル能ハスト、或
 ハ之ヲ馮道ニ比スト云、張詠嘗テ言

吾カ榜中ノ進士ヲ
謂フナリ
王公王且
冠公冠準方面
ノ寄一方ヲ鎮
當ル自ラ一面ニ

甚タ謹謂ハ本
ト準ノ門下ナ
リ故ニ之ニ更
ル甚タ謹メリ
會食中書ニ會
食スルナリ

中宮劉后

太子真宗ノ弟
六子

ク、吾カ榜中、人ヲ得ル最モ多シ、謹重
ニノ德望アルハ、李文靖ニ如クナシ、
深沈才德アツテ天下ヲ鎮服スルハ
王公ニ如クナシ、面折廷争ニノ素ヨ
リ風采アルハ冠公ニ如クナシ、方面
ノ寄ニ當テハ則チ詠敢テ辞セスト、
且ノ世ニ當テ王欽若、己テニ相タリ、
欽若罷ム、冠準、再ヒ入テ相タリ、參政
丁謂、準ニ事テ甚タ謹ノリ、嘗テ會食
ノトキ、羨準カ鬚ヲ汚ス、謂、起テ之ヲ
拂フ、準、笑テ曰ク、參政ハ、國ノ大臣ナ

王謂冠準ノ鬚ヲ拂フ圖



リ、乃チ官長ノ為メニ鬚ヲ拂フヤト、
謂、甚タ愧恨ス、準罷ム、李迪、丁謂、相ト
為ル、準、遠ク敗セラル、初メ雷州ノ司
道州ノ司迪罷ム、謂、獨リ相タリ、時ニ
馬ニ移ル、疾アツテ昏眩ナリ、準カ罷
上、己テニ疾アツテ昏眩ナリ、準カ罷
敗セラル、如キハ、皆謂、中宮ニ白メ、
之ヲ行フ、上ハ知ラス、尋テ崩ス、年五
十五、在位改元スル者五ツ、曰ク、咸平、
景德、曰ク、太中祥符、曰ク、天禧、乾興、太
子立ツ、是ヲ仁宗帝ト為ス
仁宗皇帝名ハ禎、母ハ李氏、章献明肅劉

李氏帝ノ母劉皇后
 真宗ノ正后
 養○
 赤脚後跣ヲ謂
 呼ナリ
 山陵天子ノ葬
 所ヲ秦漢長山
 ト曰フ故ニ後
 世通ク山陵ト
 名ツク擅ニ移
 ス皇堂ハ陵寢
 ヲ謂フナリ地
 ナリ懸絶ノ地
 山陵使ト為ル
 山陵都尉雷允
 恭因テ邢中
 和カ言ニ從テ

皇后之ヲ子トス、真宗、皇子ヲ得ル、已
 テニ晩シ、始生レテ晝夜啼テ止マス、
 道人アリ言ク、能ク兒ノ啼ヲ止ント、
 召メ入ル、則チ曰ク、叫ナカレ、叫フナ
 カレ、何ソ當初笑フナキニ似カント、
 帝下即チ止ム、蓋シ謂フ、真宗嘗テ上
 帝ニ額シテ嗣ヲ祈ル、群仙ヲ問フ、誰
 カ當サニ往クヘキ者ツト、皆應セス、
 獨赤脚大仙一笑ス、遂ニ命ノ降シテ
 真宗ノ子ト為ス、宮中ニ在テ赤脚ヲ
 好ムハ、其驗ナリト、昇王ヨリ太子ト

山陵既ニ向ニ
 穴ニ水石アリ
 故ニ王會之ヲ
 奏ス春秋ニ將
 ナシ春秋ニ將
 云大ニ臣ヲ必
 將メ而メ必ス
 誅セラル公子
 牙今將ニ君ヲ
 トハ將ニ君ヲ
 殺セハ將ニ君
 ヲ言フ春秋公
 羊傳ニ君親將
 ナシ將ニ君ヲ
 誅セハ將ニ君
 ハ將ニ君ヲ
 為ニトス乱ヲ
 謂フナリ人臣
 將ニ逆ル乱ヲ
 逆ナリ人臣
 将ニ逆ル乱ヲ
 フトス乱ヲ發

為ル、年十三ニ位ニ即ク、劉太后、謙
 ヲ垂テ同ク政ヲ聽ク、丁謂復ヲ用テ
 寇準ヲ竄ノ雷州ノ司戸ト為ス雷州海南
 屬參政王曾、密ニ奏ス、謂、禍心ヲ包
 藏ノ真宗ノ山陵擅ニ皇堂ヲ絶地ニ
 移スト、遂ニ謂ヲ罷ム、貶ノ厓州ノ司
 戸ニ至ル、謂、初メ學士ニ命メ、準カ責
 詞ヲ草ス、春秋ニ將ナシ、漢法ニ不道
 ヲ用ヒシメテ、證莫ト為ス、謂、竄セラ
 ル、ニ及テ、學士乃チ其語ヲ用ユ、人
 之ヲ快トス、準ヲ逐フ時ニ方テ、京師

覚ヲ待スルナリ
之ヲ誅スルナリ
道ノ誣上ノ道ノ不
類ノ如シ其語
ヲ用ニ草詞ニ
曰ク無將ノ成
舊典甚ク明ナ
リ不道ノ常
刑赦スナケ
ト丁釘ト通ス
言ハ當ニ丁謂
ヲ去ルヘキナ
リ

語シテ曰ク、欲得天下、寧當拔眼中丁、
欲得天下、好莫如召寇老。然氏準竟ニ
北ニ還ルニ及ハス、而ソ卒スニ仁宗紀
宗、通天屏ヲ以テ準ニ賜フ、是ニ及テ準
ヲ為ルメ取ラシム、浴ヨリ至ル、數日、沐
入ヲ朝服ヲ具ヘ、束帶シ、北面再拜シ、
浴シ朝服ヲ具ヘ、束帶シ、北面再拜シ、
榻ニ就テ没ス、後、中書令ヲ追贈ス、王
萊國公ニ復シ、謚ノ忠愍ト曰フ、王
曾、相ト為ル、王欽若再ヒ相ツリ、欽若
卒ス、張知白相ツリ、知白卒ス、張士遜
相ツリ、士遜罷ム、呂夷簡相ツリ、惟王
曾、天聖ノ初ヨリ、相位ニ居ル、是ニ至
テ、七年ニメ罷ム、曾、初メ進士ニ舉ラ

發解郷舉禮部
會試廷試殿試
狀元進士第一
之ヲ著盡キト謂
フ、喫著盡キス
喫飯著盡キス
ルナリテ盡キサ
ニ在ラス言ハ
志天下ヲ安シ
スルニアリス

景德真宗ノ年
全綱目ニ至ニ
作ル

ル、青州ノ發解、禮部廷試、皆第一人ノ
曰ク、狀元、三場喫著シ盡キスト、曾カ
曰ク、曾、平生ノ志、温飽ニ在ラスト、真
宗ノ末、色ヲ正ノ朝ニ立ツ、朝廷、賴テ
以テ重ト為ス、相ト作ル日、進退スル
所ノ士、知者アルナシ、或人其故ヲ問
ス、曾曰ク、恩ヲ已レニ歸セント欲セ
ハ、怨ハ誰ヲメ當ラシメント○交趾
黎桓、景德中ニ卒ス、子龍廷、其兄龍鉞
ヲ殺メ自立ス、來貢ス、名ヲ全忠ト賜
ス、太中祥符ノ間、全忠卒ス、子幼ナリ、

令ニ敗ス

明スル所ナキヲ以テ罷ラル、張士遷
 章得象之ニ代ル ○趙元昊、夏、銀、綏、宥
 靈、塩、會、勝、甘、涼、瓜、沙、肅、州、ノ地ニ拠有
 ヲ、興州ニ居リ、賀蘭山ヲ阻シテ、固ト
 為ス〔夏銀〕以下十四州、終ハ陝西ニ屬
 屬スニ大夏皇帝ト僭号シ、入寇ス、西邊
 騷然タリ、范雍、西夏ヲ經略ス、元昊ノ
 將サニ延州ヲ攻ントスルヲ聞テ、懼
 ル、甚シ、門ヲ閉チ救ハス〔延州〕陝西
 安郡 劉平戰ス、中官黃德和、平力賊ニ
 降ト 証奏ス、兵ヲ以テ其家ヲ圍ミ、其

免ルヲ冀乙ル天
 昊延ニ冠ス引
 時徳和兵ヲ是
 テ先ツ走ル平
 至テ遂ニ平
 ヲ至テ遂ニ平
 自ラ証免ルヲ冀
 フ腰斬免ルヲ冀
 和ヲ腰斬免ルヲ冀
 フ補益スル朝延
 補益スル朝延

族ヲ収ント議ス、富弼言ク、平、環慶ヨ
 リ来リ援ク〔環慶〕二州、皆姦臣救ハス
 故ニ敗ル〔姦臣〕賊ヲ罵テ而メ死ス、徳
 和人ヲ証テ免レテ冀フト、坐メ腰
 斬セラル、范雍罷ム、時ニ軍興多岐ナ
 リ、張士遷補フ所ナシ、諫官韓琦、上疏
 メ曰ク、政事府、豈ニ養病ノ坊アラシ
 ヤト是ニ於テ、士遷致仕ス、呂夷簡、復
 タ相タリ、韓琦、范仲淹ヲ用ヒ、邊帥ト
 為ス、仲淹、嘗テ兼テ延州ニ知タリ、夏
 人相戒テ曰ク、延州ヲ以テ意ト為ス

詞曰ト異ナラハ則チ敗レテカレハ果メ同カラス乃チ馳還テ書ヲ易テ行ク

節我易ニ曰ク節我ハ善類ヲ引ナリ距離ヲ以テナリ距離ヲ難ノ勇ヤ距離ヲ以テナリ距離ヲ難レハ則チ他能ハサルナリ

股ヲ拊ツツ歎息メ股ヲ拊ツツ歎息鬼輩夏竦ヲ指メクナリ言ハ深ク交疎ノ為ルニ知ルナリ目

テ還ル○呂夷簡罷ヲ求ハ上遂ニ天下ノ弊事ヲ更ント欲ス諫官ノ類ヲ増ス王素歐陽脩余靖蔡襄ニ命メ諫議院ノ職ニ供シ韓琦范仲淹ヲ以テ樞密副使ト為ス夏竦ヲ召シ樞密使ト為ス諫官論メ竦ヲ罷ム杜衍ヲ以テ之ニ代フ國子直講石介喜テ曰ク此盛徳事ナリ乃チ慶曆聖徳ノ詩ヲ作ル曰ヘルアリ衆賢之進如節我拔大吏之去如距斯脱大吏ハ竦ヲ指スナリ仲淹ト琦ト適陝西ヨリ來道中

ニメ詩ヲ得タリ仲淹股ヲ拊テ琦ニ謂テ曰ク此怪鬼輩ノ為メニ夏ヲ壞ラルト竦因テ其黨ト論ヲ造テ衍等ヲ目シテ黨人ト為ス歐陽脩乃チ明黨論ヲ作り之ヲ上ツル畧ニ曰ク小人朋ナシ惟君子ハ之アリ小人利ヲ同スルノ時暫ク朋ヲ為ス者ハ偽ナリ其利ヲ見ルニ及テ而ノ先ヲ爭ス或ハ利益テ情疎ナリ反テ相ヒ賊害ス君子身ヲ修レハ則チ道ヲ同シ而メ相ヒ益ス國ニ事レハ則チ心ヲ同

坐ヲ賜テ筆札
給ス其為ニ
欲スル所
者ト條陳セシ
ム

ノ而ノ共ニ濟フ、終始一ノ如ク、此君
子ノ朋ナリ、君タル者、但當ヤニ小人
ノ偽朋ヲ退ク、君子ノ真朋ヲ進ムヘ
シ、則チ天下治ラント○仲淹、参政ニ
遷ル、富弼、樞副ト為ル、上、既テニ仲淹
等ヲ擢テ、進見スルコトニ、必ス太
平ヲ以テ之ヲ責ム、天章閣ヲ開テ召
對シ、坐ヲ賜テ筆札ヲ給ス、仲淹等、皆
惶恐ス、退テ十事ヲ列奏ス、一ニ曰ク
黜陟ヲ明ニセヨ、二ニ曰ク、僥倖ヲ抑
ヘヨ、三ニ曰ク、貢舉ヲ精セヨ、四ニ曰

覃延ナリ府兵
唐ノ太宗紀ニ
見ユ

ク官長ヲ擇ヘ、五ニ曰ク、公田ヲ均セヨ
六ニ曰ク、農桑ヲ厚セヨ、七ニ曰ク、武備ヲ
修ヨ、八ニ曰ク、徭役ヲ減セヨ、九ニ曰ク、恩
信ヲ覃セヨ、十ニ曰ク、命令ヲ重セヨ、ト上
方ニ信向、悉其説ヲ用、唯武備府兵ヲ復セシ
ト欲スルノ一説、宰相以テ不可ト為
ス、時ニ章德象、晏殊、並同平章事タリ、未
幾ナラスメ、仲淹、陝西河東、宣撫ス、富
弼、河北ヲ宣撫ス、竦等、諂ヲ造ル、故仲淹
等、朝ニ安セス、歐陽脩亦出テ河北使
ス、晏殊罷ム、杜衍、同平章、莫夕リ行、務

四使准康軍置、
節度使、南院、景靈、
宣徽院、使、並、
命、朝、御、史、裏、
唐、朝、御、史、裏、
行、至、景、祐、中、
二、至、景、祐、中、
官、以、御、史、者、
處、察、言、未、
監、察、御、史、未、
裏、二、於、行、
シ、ハ、ナ、リ、
燈、籠、錦、間、金、
錦、籠、錦、間、金、
妃、以、名、服、
ス、遠、賤、春、
ヲ、賤、賤、春、
別、駕、為、州、
舉、正、之、為、
英、州、改、
英、州、改、

○陳執中、建明スル所ナキヲ以テ
罷ム。○夏竦罷ム、宋庠之ニ代ル、
同平章更タリ、未タ幾ナラスノ罷ム
○張貴妃ノ諸父堯佐ノ姪ナリ、堯
佐一日ニ四使ニ除セラル、監察御史
裏行唐介之ヲ論ス、聽カス、遂ニ劾奏
ス、文彦博、向ニ蜀ニ守タリ、燈籠錦ヲ
以テ貴妃ニ獻メ、執政ヲ得タリ、故ニ
堯佐ニ黨ス、上、怒テ遠メ、介ヲ賤ス、彦
博モ亦タ罷ヲ求ム。○龐籍平章更タリ
○廣源州ノ儂智高、廣州ニ寇ス、
〔源州〕

夢ト商ノ高宗
夢ト商ノ高宗
ル、西伯トメ太
公ヲ得ル

管ト為ス、即チ邕州連歲ニメ諸州隴
邕ヨリ廣西ニ至ル、皆其害、被ル樞副狄青
命メ討テ之、平テ還テ樞密使ト為ル。○龐籍
罷ム。○陳執中、梁適、平章更タリ適罷、
沈之代、執中罷、文彦博、富弼並同平章
更タリ、士大夫、人得テ相應ス、上曰、人
情此如シ、豈夢トメ賢サラニヤト、上
嘗王素問ス、執相為可ト、素曰、惟官官
官妾、姓名ヲ知サル者、其選ニ充可ト、上
慨然トシ、曰、此ノ如ハ則富弼ノミト、
契丹主、宗真殂、興宗、号子洪基立。○交

王安石仁宗紀
王、安石、好、文、書、紀、
ニ、安石、善、ク、テ、文、書、
ヲ、讀、ミ、曾、テ、其、
ヲ、撰、テ、歐、陽、脩、ニ、
以、テ、示、之、脩、カ、延、
示、ス、為、ス、擢、テ、
、進士、第一、ト、
、為、ス、停、之、
食、誤、既、ス、已、
ニ、誤、テ、鉤、テ、
食、フ、覺、テ、而、
メ、非、之、テ、食、
フ、情、ニ、近、カ、
カ、ス、メ、過、テ、
メ、ス、改、

趾ノ李徳政卒ス、子日遵立ッ。○劉沈
罷ム、文彦博罷ム、韓琦、ハ平章更タリ、
富弼罷ム。○王安石、知制誥タリ、安石、
官ニ遷ルコトニ避避メ已マズ、知制
誥ニ至テ則チ復ク辭セズ、是ヨリ先
命屢ク下ル、安石、報テ辭メ起テ、
大夫、其世ニ意ナキヲ謂ヒ其面ヲ美官識
ヲ以テ是職ニ赴クニ及安石、嘗テ花
テ、聞者喜悦セサルナシ、安石、嘗テ花
ヲ賞シ、魚ヲ釣ルノ安ニ侍シ、誤テ鉤
綱ヲ食フ、已テニ悟テ、之ヲ食ヒ既ス
上、其不情ニメ非テ遂ルヲ以テ、之ヲ

安石宴ニ侍スル圖



惡ム、安石、重名アリ、士、争テ之ニ向フ、
惟、蕪、洵、見ス、メ、辨、姦、論、ヲ、著、ス、亦、以、為、
ク、人、情、ニ、近、カ、ラ、ス、必、ス、大、ナ、ル、
ア、ラ、ン、ト、○、司、馬、光、諫、院、ニ、知、タ、リ、三、
制、ヲ、進、ム、一、ニ、ハ、君、ノ、德、ヲ、論、ス、三、
リ、曰、仁、曰、明、曰、武、武、姑、論、ニ、曰、ク、仁、ハ、
リ、曰、仁、曰、明、曰、武、姑、論、ニ、曰、ク、仁、ハ、
、萬、物、ヲ、利、シ、政、治、ヲ、修、シ、百、姓、ヲ、
、八、千、萬、人、ヲ、察、ス、此、大、君、ノ、仁、道、
、知、リ、安、危、ヲ、識、ク、賢、人、ノ、愚、ヲ、
、弁、別、ス、是、レ、非、道、ヲ、強、ル、所、也、暴、
、戾、ノ、謂、ニ、非、人、ノ、謂、ニ、非、道、ヲ、強、ル、
、之、ヲ、斷、ス、疑、ハ、ル、ハ、好、レ、モ、惑、ハ、ス、
、接、テ、移、ス、能、ハ、ス、此、レ、人、ノ、武、能、ハ、
、故、ニ、仁、耕、ス、能、ハ、ス、此、レ、人、ノ、武、
、能、ハ、ス、此、レ、人、ノ、武、能、ハ、ス、此、レ、人、
、能、ハ、ス、此、レ、人、ノ、武、能、ハ、ス、此、レ、人、
、能、ハ、ス、此、レ、人、ノ、武、能、ハ、ス、此、レ、人、

○英宗紀二曰
 遂命宮二
 入トス、其舍
 入ク、其舍
 謹テ、吾舍ヲ守
 レ、上通嗣、ア、
 ハ、吾歸ル、ト、
 テ、肩輿シ、召ニ
 赴ク、良賤三、
 人ニ、滿タス、行
 季、蕭然、唯書厨
 爲、既ニ、中外相賀
 歎、而、天、下、
 シ、其、聖、德、
 二、知、ル、ト、云、
 太、后、仁、宗、ノ、
 兩、宮、太、后、英、
 康、復、病、宗、ナ、
 リ、宗、

谷ト雖モ奔走、悲号セサルナシ、而
 メ止ム能ハス、壽五十四、皇子立ツ是
 ヲ英宗皇帝ト為ス
 英宗皇帝初ノ名ハ宗實、濮ノ安懿王允
 讓ノ子、太宗ノ曾孫ナリ、仁宗立テ皇
 子ト為ル名ヲ曙ト賜フ、仁宗崩ス、固
 ノ避ル數四、而後ニ位ニ即ク、憂疑
 フ以テ疾ヲ致ス、慈聖光獻曹太后權
 ニ同ク政ヲ聽ク、上ノ舉措、或ハ常度
 フ改ム、宦官ヲ遇スル、尤モ恩少シ、左
 右多ク悅ヒス、乃チ共ニ讒間ヲ為ス、

藤ヲ撤ス、后、政
 フ、遷テ、空、頭、
 勅、出、テ、書、未、
 姓、名、ヲ、書、セ、
 〔愈〕簽ト通ス、署
 ナリ、第、之、ニ、書、
 テ、ヨ、脩、之、ニ、書、
 テ、次、第、ニ、食、署
 セ、シ、ム
 濮王ヲ崇奉ス
 ル、通、監、綱、目、
 ス、通、監、綱、目、
 曰ク、歐陽永叔、
 議ス、後、以、為、
 フ、引、テ、以、為、
 人、ノ、後、ヲ、為、
 其、父、母、ノ、降、
 ニ、三、年、ヲ、降、
 ス、ル、期、ト、為、
 而、メ、父、母、ノ、名、

兩宮遂ニ隙ヲ成ス、宰相韓琦參政歐
 陽脩等、調護スルニ賴テ、上、既ニ康復
 ヲ政ヲ親ラス、太后、簾ヲ撤ツ、琦、一、日
 空頭ノ勅ヲ出ス、脩ハ已テニ檢ス、道
 弊未タ檢セス、脩カ曰ク、第之ニ書セ
 ヲ韓公必ス説アラント、琦、政、堂ニ
 坐ス、内侍任守忠ヲ召メ、庭下ニ立シ
 メテ曰ク、汝カ罪死ニ當スト、責テ斬
 州ニ安置ス、蓋シ兩宮ヲ交鬪セレム
 ルノ人ナリ、○濮王ヲ崇奉スルノ典
 礼ヲ議ス、執政皇考ト稱セント欲ス、

服降ス可シ以テ
メ名ハ没ス可
ナリルヲ見ス可
翰林ヲ罷ム後
范鎮、翰林職ヲ任
解、太防、諫諍、純
仁、太防、諫諍、純
職ヲ解、太防、諫諍、純
モ亦罷ム、呂公著
ヲ罷ム、呂公著
職ヲ解、太防、諫諍、純

西
后
曹太后ノ

又太后ノ詔ヲ以テ、上ヲメ親ヲ稱セ
シム、司馬光、范鎮、呂誨、范純仁、呂太防、
呂公著、交論メ以テ不可ト為ス、鎮ハ
翰林ヲ罷ム、范純仁、太防ハ言職ヲ解
ク、公著ハ、侍講ヲ罷ム、議、竟ニ決セス、
○契丹復大遼ト改号ス○上芻ス在
位四年、改元スル者一ツ、白ク、治平、年
三十八、皇太子立ツ、是ヲ神宗皇帝ト
為ス
〔神宗皇帝〕名、頊、母、宣仁聖烈皇后、高氏ト曰、
曹太后、嬖ナリ、幼メ英宗、同后、所、鞠ハ

入對神宗夏四月
寧元、王安石始
乙巳、王安石始
テ、京師ニ至ル
時ニ命ヲ受ク、
ノ命ニ命ヲ受ク、
テニ命ヲ受ク、
ヲ越ニ命ヲ受ク、
詔ノ次ニ命ヲ受ク、
入對セシム、先帝
治ル所ヲ問フ、先
スル所ヲ問フ、先
安石對テ曰ク、先
術ヲ擇フ、曰ク、先
ト為ス、帝曰ク、先
唐ノ太宗、何如、
ニ曰ク、陛下、當
可シ、堯舜ニ法ル
ヲ以テ、何ソニ法
アテ、何ソニ法
對セシム、ト、將ニ

ル後、英宗、配、為、テ、頊、生、穎、王、ヨリ、太子
ト、為、ル、尋、テ、位、ニ、即、ク、○濮、議、アル、ヨ
リ、以、來、言、者、歐、陽、脩、攻、己、罷、ス、遂、罷、韓
琦、モ、亦、罷、ム、○王、安、石、翰、林、學、士、ト、為
ル、入、對、ス、首、テ、術、ヲ、擇、テ、以、テ、言、ヲ、為
ス、言、必、ス、堯、舜、ヲ、稱、ス、○富、弼、同、平、章
吏、タリ、王、安、石、參、政、タリ、安、石、既、ニ、政
ヲ、執、ル、士、大、夫、素、ヨリ、其、名、ヲ、重、シ、ス、
太、平、立、ト、コ、ロ、ニ、致、ス、可、シ、ト、以、為、リ、
呂、誨、時、ニ、御、史、中、丞、タリ、將、ニ、對、セ、ン
ト、ス、學、士、侍、讀、司、馬、光、モ、亦、將、ニ、經、筵

將ニ入對ヤ
トスルナリ
參云々新政王
安石ヲ彈ス

其說ヲ得ス此
レ謂ユル先見
呂誨ニ及ハサ
ルナリ



司馬光呂誨ト並ヒ行圖

ニ詣ントス、相遇フ並ヒ行ク、光密ニ
問フ、今日ノ言フ所ハ何支ソト、誨カ
曰ク、袖中ノ彈文ハ、乃チ新參ナリト、
光愕然トメ曰ク、衆人ヲ得ルヲ喜フ、
奈何ソ之ヲ論スル、誨曰ク、君實モ亦
此言ヲ為スマト君實司馬安石、偏見
ヲ執リ、人ノ己ニ倭スルヲ喜フ、天下
必ス其弊ヲ受ケント、光退テ之ヲ思
フニ、其說ヲ得ス、播紳ノ間其疏ヲ傳
フル者アリ、往々ニ其太過ヲ疑フ、誨
言フ、大茨ハ忠ニ似タリ、大詐ハ信ニ

似タリ、安石、外朴野ヲ示シ、中巧詐ヲ
藏シ、驕蹇ニメ、上ヲ慢ス、陰賤物ヲ害
スト、其十支ヲ疏ス十支大略ニ在リ、
舉丁駁當ヲス、而メ肯テ恩ヲ謝セス、憂
ニ世ヲ終ヘテ、而メ臣累ヲ起ク、寧府ニ神宗ノ
初ニ在テ疾ニ命トシ、江寧府ニ除スノ
ルニ及テ、乃チ命トシ、避ス、重ナリ、小官
ハ則チ辭セハル、乃チ重ナリ、小官
トハ則チ辭セハル、乃チ重ナリ、小官
自ラ尊シ、乃チ重ナリ、小官
批察ノ乞ヒ、乃チ重ナリ、小官
糾察ノ乞ヒ、乃チ重ナリ、小官
五ナリ、乃チ重ナリ、小官
ヲ欲ス、乃チ重ナリ、小官
弄ルニ、乃チ重ナリ、小官
ア弄ルニ、乃チ重ナリ、小官

竈頭 宋神宗 二十六

シム何書三代
以前元籍備ハ
ラス義倉ヲ罷
置テ以テ凶荒
至テ之ヲ罷
均輸云ク發運
使ニ命メ之ヲ
領セシム凡ソ
上供ノ物皆貴
ヲ徒シ賤ニ就
易ヲ得預テ速
京ニ在ル倉庫
ノ當ニ弁スハ
キ所者知シ使
直者買ヲ以テ
之ヲ待テ仁
罷ラシ純仁
出テ行中府
ヲ知ス

轍新法ヲ議スルヲ以テ罷行ル
官條例司ヲ置テ富強罷陳并之同平章凌
少卿升之初人安石ニ附ク既ニ相ト
ハ頗異同ヲ為ス○預買法ヲ行
バ預買法ニ預買ノ物預買ノ融
テナリ凡ソ細ノ類民間ニ餘
テ而シ其物之ヲ賣リ俟テ而
メ平價ヲ以テ之ヲ賣リ與テ而
ニ令預買外錢ヲ給シ細縮ヲ和買
ス給路民令貨云夏秋ニ至テ庫
細輸ヲ買テ謂テ預買トシ○趙抃罷公抃

南府推官青苗
法云貨物常ノ
低昂ヲ制メ常
ニ其平ヲ得セ
シム細縮ト曰
大絲ヲ細縮ト
フ小絲ヲ細縮
曰フ細縮ヲ買
ノ法ハ物ヲ和
平スルニハ和
ナリ故ニ之ヲ
和乎ト曰フ策
ヲ用ニ廷試ル
策此ニ始マル
中丞云々中丞
ハ御史中丞ナ
リ裏行ハ監察
御史裏行ナリ
詞頭云々詞頭
ハ詔命ナリ李
定秀州判官
ト為ル石官ニ

日為ス所ノ夏夜ハ必ス香ヲ焚テ天
ニ告ク○舉人ヲ親試ス初テ策ヲ用
ニ葉祖洽新法ニ附會スルヲ以テ擢
テ第一ト為ス○右正言孫覺御史
裏行程題新法ヲ議スルヲ以テ罷ラ
ル○石正言官諫○中丞呂公著裏行張
戩新法ヲ議スルヲ以テ罷ラル○李
定裏行ト為ル知制誥宋敏求蘇頌李
大臨定カ詞頭ヲ繳スルヲ以テ罷ラ
ル○謝景温御史知雜ト為ル官御史
トナシ○直史館蘇軾嘗テ万言書ヲ

館職直學士ヲ
謂フ請乙光安
外ト合ハス故
石屢ト出テル
外官ニ補スル
ヲ請フニ補スル

許州ニ移サレ
光初ノ出テ本
永興ニ如ク本
路青苗助役免
カ後、移テ許州
リ、後、移テ許州
ニ知タリ赴カ

屢請西京ニ判
ハサルノ請ニ
判ヲ得西京ニ
判四年任制ニ
三年ヲ一任ニ
為ス相交替ト
ルナリ光四タ
得任セラルテ
居タリ故ニ洛

ヲ言フ上、安石ヲ喻メ曰ク、三不足ノ
説ヲ聞ヤ否ヤ、曰ク、聞カス、上曰ク、外
人ノ云ク、朝廷以為ク、天變ハ畏ル、
ニ足ラス、人言ハ凶ルニ足ラス、祖宗
ノ法ハ守ルニ足ラス、昨ノ學士院ヨ
リ、館職ノ兼問ヲ進ム、專ラ此三度ヲ
指スト、兼問ハ光カ為ス所ナリ、光屢
外ヲ請フ、永興ヲ得タリ、(永興)宋陝西
ソケテ永興軍、許州ニ移サル、上言ス
京兆郡ト曰フ、許州ニ移サル、上言ス
ラク、臣ノ不才、最モ群臣ノ下ニ出
先見ハ臣誨ニ如カス、公直ハ范純仁

程顥ニ如カス、敢言ハ、蘓軾、孔文中ニ
如カス、勇決ハ范鎮ニ如カス、ト屢西
京ノ留司御史臺ニ判タラント請フ
光疾病ヲ以テ間職ヲ乞フナリ、職官
志ニ留司御史臺ハ、臺吏ヲ管句ス、舊
ト判テ是ニ至テ請フ得、後四タヒ任
セラレテ、嵩山ノ嵩福官ニ提舉タリ
○歐陽修、先ニ青州ニ知タリ、擢青
苗錢ヲ給散スルヲ止ルヲ以テ、徙テ
蔡州ニ知タリ、是ニ至テ乞テ致仕ス
○富弼、先ニ亳州ニ知タリ、青苗ノ法
ヲ格スルニ坐メ、徙テ汝州ニ知タリ

〔差役〕田糧ノ驗
セス人ヲ差ノ
役ニ充ツ〔募役〕
〔法〕人戸ヲ募
第ニ免役人錢ヲ
輸セシム人充ツ
募リ役ニ充メツ
大學云々初メ
ト為ス員外限
ラハス外ヨリ
内舎升ルニ
百員内舎ヨリ
上舎升ル一
百員市易法
師員置テ市
務ヲ置テ先
官錢支テ貨
テ以テ客問ニ
行ハリ出ス
ルハシメ賣
ルハ賣物

○中丞楊繪、裏行劉擊、新法ヲ議スル
ヲ以テ、罷ラル。○差役ヲ罷ム、募役ノ
法ヲ行フ。○大學三舎ノ法ヲ立ツ。○
市易ノ法ヲ行フ。○保馬ノ法ヲ行フ。
宋鑿ニ、熙寧五年、開封府ノ果ニ詔ノ、
諸縣ノ保甲馬ヲ養ハ、願フ者ハ、
聽ス、先ツ開封府ノ諸縣ニ於テ、
三、千匹、陝西ノ封府ノ諸縣ニ於テ、
田均稅ノ法ヲ頒ツ。○熙寧路ヲ置ク
〔熙〕河路ヲ置ク
ス、即チ臨兆府ニ屬王韶ヲ以テ、經畧安
撫等ノ使ト為ス。綱目熙寧五年、八月
之ヲ敗ル、遂ニ是ヨリ先キ、韶、平戎ノ
武勝ニ禁ク、遂ニ是ヨリ先キ、韶、平戎ノ
策ヲ上ツル、謂ク、西夏ヲ平ケント欲

メ賣テ願ハハ、
ルハ、
ノ、
シ、
ヒ、
亦、
馬、
願、
匹、
給、
与、
者、
均、
北、
一、
二、
十、
為、
メ、
賣、
テ、
願、
ハ、
ハ、
ノ、
シ、
ヒ、
亦、
馬、
願、
匹、
給、
与、
者、
均、
北、
一、
二、
十、
為、

セハ、當ニ河湟ヲ復スヘシ〔河湟〕水、蘭
谷ニ出ツ、東今古渭ノ西、熙寧中、渭州
ノ河ニ入ル、今古渭ノ西、熙寧中、渭州
漢ノ隗西等ノ郡〔古渭〕皇祐中、渭州
ヲ置ク、即チ隗西郡吐蕃、唃廝囉ノ一
〔蘭〕州、鞏昌ニ屬ス、蕃名宜ク之ヲ併
族、其間ニ國ス、首領ノ蕃名宜ク之ヲ併
セ有テ、以テ夏人ノ右臂ヲ絶ツヘシ
ト安石以テ、奇謀ト為メ、始テ熙寧、
役ヲ開ク、韶、河、洮、岷、疊、宕、等ノ州ニ克
川〔河洮〕即チ熙寧路〔岷〕鞏昌ニ屬ス、
州、又青唐、咽喉ノ地ニ據ル、邊郡益斥
ク兵役ノ死亡甚ク多シ〔青唐〕都州、
三十三

ヲ以テ使テ地ノ肥瘠ヲ計量セシメ、分テ五等ト為シ、以テ均足スルヲ以テ絶言ハ、若シ河等ノ処、得ハ、西夏ノ如シ、咽喉ノ絶カ、右臂ヲ絶カ、害ノ地、要シ、咽喉ノ絶カ、封シ、界ヲ表スルヲ、埃ト曰フ、十里ニ一埃、置テ、里ニ一埃、中書檢正ト為テ、命ヲ承テ、湖南北ヲ察防ス、方ニ始テ、議云々、

○中書檢正章惇、湖北ヲ察防ス、始テ議ノ、南北江、乃チ古ノ錦州ノ地ナリ、施黔、牂牁ニ接ス、(施州、川南ニ屬ス、牂牁、郡川南ニ屬ス、)珍州、章惇ニ命メ、措置セシム、惇言フ、梅山ノ蛮徭ヲ招諭メ、令、戸、省スルヲ作ス、皆歡迎スト、其實ハ殺戮ス、淳冕、江ヲ蔽フ、(徭南夷ノ別種ト曰フ)○詩書、周礼、三經義局ヲ置ク、安石提舉タリ、呂惠卿及ヒ安石カ子雱等檢討タリ、○熙寧七年、天久シク雨、河ノ東

江ノ制、御ス、戸ノ民、省ク、師、附、州ノ民、安上門、汴州ノ民

百ニメ、一分ノ一、及ハス、ハス、

北、陝西流民皆流テ京城ニ入、而京城ノ外、饑民尤多シ、安上門ヲ監スル、鄭俠、畫テ圖ヲ為リ、上書メ曰ク、陛下、南征、北伐、皆勝捷ノ勢ヲ以テ圖ヲ作り、来リ上ツル、一人モ天下憂苦メ、妻子相保タス、遷移困頓メ、違々トメ、給セサルノ状ヲ以テ圖ヲ為メ、而メ献スル者ナシ、臣、謹テ安上門、目ヲ逐テ見ル所ヲ接メ、繪メ一圖ヲ成ス、百ニ一ノ一二及ハサルモ、亦涕ヲ流ス、可シ、况ヤ千萬里外ヲヤト、時ニ早ヲ以テ

政問フ西應參
政歐陽脩凡ソ
夏文學ヲ談レ
ハ則チ西蘇ニ
問フ

郷郡云々琦本
ト相州ニ判人
メ相州ニ判人
リ故郷郡ト
曰フ西朝云々
仁宗英宗ノ遺
命ヲ承テ而メ
天子ヲ勅立ス
ルノ元勳アリ
地ヲ割テ遼ニ
地ヲ割テ遼ニ
与フ割テ遼ニ
賈肆ナリ

大夏ニ至テハ、則チ自カノ之ヲ決ス、
人々以テ相ノ体ヲ得タリト為ス、出
テ、相州ニ判タリ、初メ青苗ノ不便
ヲ言フ、朝廷從ハス、即チ命メ散給メ
曰ク、藩臣ノ体、當ニ是ノ如クナルハ
シト、郷郡ニ在ル、八年ニ終フ、御製
ノ碑ニ曰ク、兩朝顧命、定策元勳、碑
ト○韓縝ニ命メ、河東ニ如テ地ヲ割
シム、是ヨリ先キ、遼ノ使、屢至テ言フ、
河東ハ邊ニ濶テ、戍墨ヲ増修ス、舖舎
ヲ起テ、彼國ノ將應朔ノ州界ニ侵入

榆柙ヲ植ニ其
成長ノ以テ蕃
騎ヲ拒ク為メ
ナリ都作院兵
器ヲ修スル所
口三十七將名
号未夕詳ナラ

ス、乞フ毀撤ヲ行テ、別ニ界至ヲ立テ
ント、蓋遼人、朝廷ノ高麗ヲ招キ、熙河
ヲ建テ、西山ニ榆柙ヲ植ヘ〔西山〕鞏昌
在保甲ヲ創メ、河北ノ城池ヲ築キ、都
作院ヲ創シ、弓刀ノ新様ヲ降シ、界北
ノ三十七將ヲ置テ、見テ、燕ヲ復スル
ノ意アルカト疑フ、故ニ地界ヲ爭フ
ヲ以テ、名ト為シ、朝廷ノ以テ應スル
所ヲ觀ル、安石、之ヲ断メ曰ク、將ニ之
ヲ取ント欲セハ、必ス姑ク之ヲ與シ
ト、東西、地ヲ失フ、七百里○安石、再ヒ

管商管仲、商鞅

相タル、二年、屢病ヲ謝ス、子零死ス、去
 ニテ求ム、尤モカハ、上益其為ル所ヲ
 厭フ、出シテ江寧府ニ判タラシム、遂
 ニ復タ用ラレス、安石、夏ヲ用シヨリ、
 口ヲ先王ニ談ス、而メ專テ管商ノ政
 ヲ行フ、上、富強志アルヲ知テ以テ、其
 欲、濟人所ヲ思フ謂、法立ルハ、當ニ小
 人ヲ用テ而メ後ニ君子ヲ以テ之ヲ
 守ラシムヘシト、其是ノ理ナキヲ悟
 ラサルヤ、天下騷然タリ、而メ國未タ
 嘗テ富マズ、邊鄙、夏ヲ生ス、徒、多ク喪

敗ス、而メ國未タ強カラズ、西鄙、治平
 ノ末ヨリ種、諤、綏州ヲ取ル夏人即チ
 兵ヲ興メ報復セシト欲ス、夏主諒祚
 卒ス、子秉常立ツ、大ニ入寇ス、安石、王
 韶カ燕河ヲ取ルノ策ヲ用エト雖モ、
 徒ニ怨ヲ西蕃ニ構テ鬼章西蕃ノ等
 カ屢寇患ヲ為スヲ致ス、初ヨリ此ヲ
 以テ、西夏ヲ制スル能ハズ、用ユル所
 ノ沈起、劉彝又蒙ラ南方ニ生ス、交趾
 ノ李日遵卒ス、子乾德立ツ、起、彝相繼
 テ桂州ニ知タリ、土丁ヲ集テ、保甲ト

交人大舉入寇ノ圖



為シ、海濱ニ於テ、舟師ヲ集テ、水戰ヲ
 教ニ、州人、交人ト貿易スルヲ禁止ス、
 交人、大舉メ入寇ス、邕州ヲ圍ミ、欽廉
 ヲ陷ル〔邕欽廉〕三州、海南ニ属ス、声言スラク、中國、
 青苗助役ノ法ヲ作メ、以テ民ヲ困シ
 ム、兵ヲ出メ、相救フト、安石怒ル、趙高
 等ヲ遣メ、之ヲ討セシム、官軍死スル
 者十二六、兵禍、安石ノ去ニ訖テ、而メ
 未タ已マズ、吳充〔吳充〕王珪、安石ニ繼テ、相
 トナル、充、先ニ政府ニ在テ、數政事ノ
 非便ヲ言フ、既ニ安石ニ代ル、蔡確、鄧

交人ノ交趾ノ中人
 死六ツ發ス云々
 錢民ヲ賑恤ノ資
 以テ作業ノ資
 ト強半ハ大苗
 云強半ハ大苗
 ナリ、此詩、青苗
 助役、不便ヲ
 ル、言ハ、百姓
 中、言ハ、百姓
 多ク、第中、以テ
 テ、次、第中、以テ
 但、學得ルノ語、音
 明法、唐制、明法
 科、法、律、法、律

潤甫等、共ニ之ヲ攻ム、去ル能ハス○
 元豐二年、湖州ニ知タル〔湖州〕江浙ニ
 興〔蘇軾〕黃州ニ安置ス〔黃州〕淮西是ヨ
 リ先キ、中丞李定言フ、軾、熙寧ヨリ以
 來、君父ヲ怨謗ス、舒亶モ亦言フ、軾、時
 吏ヲ議スト、陛下、錢ヲ發スル、本ト以
 テ貧民ヲ業クレハ、則チ曰ク、贏得タ
 リ兒童語音好シ、丁年強半城中ニ在
 リト、明法以テ群吏ヲ課試スレハ、則
 チ曰ク、書ヲ讀ム万卷、律ヲ讀マズ、君
 ヲ堯舜ニ致スニ、終ニ術ナシト、水利

公輔ノ望當ニ
三公ト為テ天
子ニ輔弼ヲ謂
ノ名望ヲ謂フ
ナリ一紀十ニ
年ヲ紀ト曰フ
同ク對スナリ
召シ對スナリ

直視云々直視
ハ視テ移ラサ
ルナリ宗孟ハ
安石ノ黨本傳
ニ上語セズ宗
孟ヲ直視スル

之ヲ久メ曰ク
蒲宗孟乃ラ司
馬光ヲ取ラズ
ヤ論セズ只樞
密ヲ辭スル一
節朕即位ヨリ
以來唯此人ラ
見ル他ハ則チ
チ之ニ迫テ去
ラシムト雖モ
亦肯セスト宗
孟懃懼メテシ
容ヲ為ルナシ
蔡確曰ク云々
國是ニ託メ之
ヲ沮ムナリ國
是者舉國ノ公
是者舉國ノ公
ナリ語ハスル
ニ本ツクハ新
序

諸軍死スル者万三千、上、奏ヲ聞テ
慟哭ス。○富弼、遺表ヲ上テ、言フ、忠諫
杜絶メ、諂諛日ニ進ム、興利ノ臣、國ノ
為メニ怨ヲ歛ム、又言フ、西夏、大ニ
憂フ可シ、望ラクハ、聖念ヲ留メヨト、
弼、早ニ公輔ノ望アリ、名夷狄ニ聞フ、
遼使至ルコトニ、必ス其出處安否ヲ
問フ、忠義ノ性、老テ弥篤シ、家居スル
一紀、斯須モ朝廷ヲ忘レズ、是ニ至テ
薨ス。○宰相、同ク對ス、上、人才ナキノ
歎アリ、蒲宗孟カ曰ク、人才半ハ司馬

光カ邪說ノ為メニ壞ラルト、上、語セ
ス、宗孟ヲ直視スル下、之ヲ久メ曰ク、
蒲宗孟、乃司馬光ヲ取ラスヤト、宗孟、
尋テ罷ラル、司馬光カ、資治通鑑成ル、
上、即位ノ初ノ、已テニ嘗テ御製ノ序
アリ、元豐七年ニ至リ、書始テ上ツル、
初ノ官制、將ニ行ハントス、上、新舊ノ
人ヲ取テ、兩ナカラ之ヲ用ニト欲ス、曰、御
史太夫ハ、司馬光ニ非レハ不可ナリ
ト、蔡確カ曰ク、國是方ニ定ル、願クハ
少ク之ヲ遲テト、既ニメ上、疾アリ、又

曰ク、來春、儲ヲ建テハ、當ニ司馬光、呂公著ヲ以テ、師保ト為スヘシ、公著ハ、夷簡カ子ナリ、上、在位十八年、改元者、二ツ、曰ク熙寧、元豐、精ヲ厲シ、治ヲ求ム、日昃、マテ食ニ暇アラズ、平生畋游ヲ御セス、宮室ヲ治セス、惟勤惟儉、將ニ以テ大ニ為スフラントスルナリ、奈何ソ熙寧以來、安石ニ誤ラル、元豐以後、夏ヲ用ユル者、終始皆安石ノ黨ナリ、竟ニ天下ノ患ヲ為ス、北狄ノ倔強ヲ憤テ、慨然トメ幽燕ヲ恢復スル

待フ失乙官軍、交人ノ為ノ軍、敗リ、律ハ、軍法、ナリ、易ニ曰ク、師出ルニ、律ヲ沈、以テス、一説、沈、起、劉彝、交人ヲ

皇太子神宗ノ

是ヨリ先キ云、
王顥ヲ立シ、
王顥、乃チ怒、
謀ル、公繪ニ怒

龍頭

十八史略評解卷九

宋書

四十一

ノ志アリ、先ツ靈夏ヲ取テ、西羌ヲ滅シ、乃チ北伐ヲ圖ラント欲ス、安南ニ律ヲ失フニ及テ、愕然トシ、赤子罪ナク、而ソ死スルヲ歎ス、永樂ノ敗、益兵ヲ用ユルノ難ヲ知ル、始テ征伐ノ念ヲ息ム、卒ニ一夏ノ意ノ如クナルナシ、蜀ス、年三十八、皇太子立ツ、是ヲ哲宗皇帝ト為ス、哲宗皇帝名ハ煦、初ノ延安郡王ト為ル、神宗大漸ナルトキ、立テ太子ト為ル、是ヨリ先キ、蔡確、令人邢恕ヲ遣テ、高

高氏神宗母
尊テ太皇太后
ト為ス（岐嘉英）
宗ノ子（顯）亦英

抵當ヲ罷ム（神）
宗ノ時人財聽
メ縣官ノ財貨
ヲ賒貸シ田宅
或ハ金帛ヲ以
テ抵當ト為ス
息十分ノ二ヲ
輸出スレハ過
外ニ毎月八更
罰錢百ノ分

ニテ加ハシ河
ヲ罷ム（河）
ノ地課及ル所
ツ地課及ル所
平免役科息錢
ヲ罷ム（免）
是ヨリ先キ京
師百物行官司
アリ須ル所升
保ニ以テ折弁
ス類ヒ倍折ア
リ神宗ノ時呂
嘉問奏ス衆行
願クハ免行錢
ヲ出サシト詔
ノ之ニ從フ中
ヨリ出ツ太中

公繪ヲ邀ハ高ハ姓公繪ハ名太后ノ
嬪太后ニ白サシメント欲ス（令人）唐
ニ起居舍人分テ左右ニ侍ス四言フ
方ノ書ヲ献納スルヲ掌トル
延安ハ幼冲ナリ岐嘉賢王ナリト
公繪懼テ曰ク此レ何ノ言ソ公吾家
ニ禍セント欲スルヤト亟ニ去ル怒
禍心ヲ包藏ノ反テ謂フ太后王珪ト
表裏ス延安ヲ捨テ英宗ノ子顯ヲ
立ント欲ス己及ヒ章惇蔡確ニ頼テ
變ナキヲ得タリト且ツ其説ヲ士大
夫ノ間ニ播ス神宗崩ス太子位ニ即

ノ甫十歳太皇太后同ク政ヲ聽久熙
寧中太后已テ嘗テ涕ヲ流メ神宗
ノ為メニ言ク安石カ變法便ナラス
ト既ニ簾ヲ垂テ天下厭苦日夕知首
東京戸部罷京東西路保馬罷京東西
物貨場罷諸州鎮寨市易抵當罷汴河
堤岸司ノ地課放市易常平免役息錢
ヲ罷ム在京ノ免行錢ヲ罷ム提舉保
甲錢粮巡教等ノ官ヲ罷ム方田等ヲ
罷ム皆中ヨリ出ツ大臣ハ與カラス
○王珪卒ス蔡確韓縝左右僕射ト為

走卒續綱目伍ノ
 注ニ走卒ハ、
 伯ノ類ナリ、
 杖ヲ行フ者ナ
 リ、司馬君實ヲ
 知ル、名望アリ
 ナリ、言フテ以
 テ額ニ加テ、手
 ナリ、即チ南膜
 ニ、即チ南膜ニ
 ナリ、或ハ南膜
 ナリ、言フテ、
 ナリ、拜スルコ
 ト、佛号ト呼
 称ス、而シテ佛
 号ト呼

ル、章惇、樞密院ニ知タリ、司馬光ハ、門
 下侍郎タリ、光、洛ニ居ル、十五年、兒童
 走卒モ、密司馬君實ヲ知ル、神宗升遐
 ス、関ニ赴テ入テ臨ス、衛士、望見テ皆
 手ヲ以テ額ニ加テ曰ク、司馬相公ナ
 リト争テ馬首ヲ擁ノ呼テ曰ク、公、洛
 ニ歸ルナカレ、留テ天子ニ相トシ、百
 姓ヲ活セヨト、在ル所口數千人、之ヲ
 聚觀ス、光、懼テ洛ニ歸ル、已テニメ召
 レ執政ト為ル、○河南ノ程頤、是歳ヲ
 以テ卒ス、頤字ハ伯淳、弟頤、字ハ正叔、

亦膜拜ト曰フ、
 此レ衛士、光ヲ
 望ミ見テ、胡人
 佛ヲ拜スルコト
 ナリ、胡人佛ヲ
 ナリ、拜スルコト
 ナリ、佛号ト呼
 称ス、而シテ佛
 号ト呼

兄弟、皆濂溪、周惇頤ニ從テ、學ヲ受ク
 姓、惇頤、字ハ茂叔、博學力行、道
 ヲ聞テ早シ、夏ニ遇テ、剛果、古人ノ風
 アリ、政ヲ為ス、嚴恕ニメ、務テ理ヲ盡
 シ、名節ヲ以テ自ラ礪ス、雅ヨリ、高趣
 アリ、聽前ノ草、除セス、曰ク、自家ノ
 意思ト一般ナリト、黃庭堅、稱ス、其人
 品甚タ高シ、胸中灑落タル、光風霽月
 ノ如シト、太極圖通書アリ、世ニ行ハ
 ル、頤、頤初メ之ニ從フ、首トメ仲尼顔
 子ノ樂ム所ハ何事ソト尋ネシム、學

太極陰陽五行
 通書四篇
 命周禮九命
 士九品
 文九人
 謂之本外
 云々
 張載程頤
 兄弟子孫
 於外
 故表叔
 人之道
 明道先生
 然トカ
 二カ
 明道先生
 生トカ

成ル、各斯文ヲ以テ己レカ任ト為ス、
 頤嘗テ言フ、一命以上、苟モ心ヲ物ヲ
 愛スルニ存セハ、人ニ於テ、必ス濟ス
 所アラレト、熙寧中、新法ノ合ハサル
 ヲ以テ、國ヲ去ル、神宗嘗テ人才ヲ推
 擇セシハ、薦ムル所、數十人、表叔張載
 弟頤ヲ以テ首ト為ス、其死スルヤ、文
 彦博、衆論ヲ采リ、其墓ニ表ノ、明道先
 生ト曰フ、而ノ弟頤、之カ序ヲ為テ、曰
 ク、周公没メ、聖人ノ道行ハレス、孟子
 死メ、聖人ノ學傳ハラズ、道行ハレサ

諸ハ善ナリ、後
 淑之ヲ先輩ニ
 學之ヲ得テ以テ
 開身ヲ善ス
 其馬見ルナキ
 自又明カナラキ
 サル又明カナラキ
 年ノ後、明道先
 生孟子ノ道先
 去ル凡テ千四
 百年

レハ、百世善治ナシ、學傳ハラサレハ、
 千載真儒ナシ、善治ナケレハ、士猶ヲ
 夫ノ善治ノ道ヲ明ニスルヲ得、以テ
 諸ヲ人ニ淑シ、以テ諸ヲ後ニ傳フ、真
 儒ナケレハ、天下賢ハ馬トシ、之ク所
 ヲ知ルナシ、人欲肆ニメ、而メ天理滅
 ス、先生千四百年ノ後ニ生レテ、不傳
 ノ學ヲ遺經ニ得タリ、異端ヲ辨シ、邪
 說ヲ息ム、聖人ノ道ヲメ復世ニ明カ
 ナラシム、蓋シ孟子ノ後ヨリ一人ノ
 ミト、頤嘗ニ人ニ語テ曰ク、吾ノ道ヲ

學ハサル所ナ
類ニ程明道伊
川

萬物ノ變云々
物一ニ象ニ作
ル言ハ周易ニ
通シ象數ニ精

加一倍ノ法太
極兩儀ヲ生シ
兩儀四象ヲ生
シ四象八卦ヲ
生シ八卦類ヲ
如シ之ヲ推ス
ニ窮テ皇極
云々太中至正
變ニ應シ窮ル
キノ義ニ取ル
觀物篇十卷觀
外篇二卷

倡先ヲ導引ス
ルナリ

知ント欲スル者ハ此序ヲ觀ハ可ナ
リト張載字ハ子厚初メ學ハサル所
ナシ後二程ノ言ヲ聞キ乃チ盡ク其
學ヲ棄テ而ハ爲ニ講テ東銘西銘
正蒙理屈等ノ書アリ世ニ行ハル人
之ヲ橫渠先生ト謂フ共城ノ邵雍字
ハ堯夫州共城縣屬河南ニ居ス二程ト
友タリ雍ノ學心ヲ玩フ高明ニメ天
地ノ變化陰陽ノ消長ヲ觀テ以テ萬
物ノ變ニ達シ物數ヲ精ラス推スニ
中ラスト云一ナシ顛嘗テ考試院ニ

在リ其數ヲ以テ之ヲ推ス出テ雍ニ
謂テ曰堯夫カ數ハ只是加倍一ノ
法ナリト雍其聰明ヲ歎ス雍數學ヲ
以テ二程ニ傳ント欲ス二程受ケス
邢恕受ケント欲ス雍許サスメ曰ク
後ニ姦雄ヲ長スト雍皇極經世書十
一卷擊壤集歌アリ世ニ傳ハル人
ヲ康節先生ト謂フ富弼司馬光等皆
深ク之ヲ敬重ス宋ノ歐陽脩古文ヲ
以テ天下ニ倡テヨリ文章大ニ變ス
ト雖モ而儒者義理ノ學ハ周程出

ルニ至テ、然ノ後ニ大ニ明ナリ、雍、惇、頤、載、皆ナ神宗ノ世ニ歿ス、是ニ至テ、頤又歿ス、惟頤ノミ在リ、學者之ヲ宗トノ、伊川先生ト為ス○元祐元年、蔡確罷ム、確、章惇、邢恕ト相交結ス、恕、往來語言ヲ傳送シ、自ラ謂フ、定策ノ功アリト、言官王覲極メテ惇、確、及ヒ韓縝、張璪ノ明邪ナルヲ言フ、劉摯、朱光庭、蘇轍、數十疏ヲ累テ論劾ス、確、先ニ黜ラル、司馬光ヲ以テ左僕射ト為ス時ニ王安石、己テニ病ム、其弟邸吏ノ

〔言官〕即チ諫官

〔先〕ニ黜ラル陳州ニ知タリ

〔其弟〕安國

平ニ光カ行

状ヲ以テ之ニ示ス、安石カ曰ク、司馬十二、相ト作ルト、悵然トノ之ヲ久メ、議者、或ハ謂フ三年父ノ道ヲ改ルナシ、新法姑ク稍ヤク甚キ者ヲ損メ是ナシト、光慨然トノ、之ヲ爭テ曰ク、先帝ノ法、善キ者ハ百姓ト雖モ變ス、可ラス、安石、惠卿等カ建ツル所ノ若キ、天下ノ害ヲ為シ、先帝ノ本意ニ非サル者ハ、當ニ焚ヲ救ヒ、溺ヲ拯カ如クナルヘシ、猶ヲ恐クハ及ハサラニテ、況ヤ太皇太后、母ヲ以テ子ヲ改ム、子

〔拯〕亦丞ナリ

父子ノ議言ハ、新法ハ、乃チ先帝立ル所ニ改ム而ノ子之ヲ改ム

ノ父ヲ改ルニ非ルヲヤト、衆議乃チ定マル、或人、光ニ謂テ曰ク、章惇、呂惠卿、輩、他日父子ノ議ヲ以テ、上ニ聞スルアラハ、則チ朋黨ノ禍作ラント、光、起立メ手ヲ拱シ、聲ヲ厲シテ曰ク、天若シ宋ニ祚セハ、必ス此吏ト、安石、朝廷ノ其法ヲ變スルヲ聞クコトニ、夷然トシ、以テ意ト為サ人、助役ヲ罷テ、差役ヲ復スト聞クニ及テ、愕然トシ、失声ノ曰ク、亦罷テ此ニ至ルカト、良久メ曰ク、此法終ニ罷ム可

福建子惠卿ハ、福建ノ人

呂公著云々、呂公著ヲ以テ右僕射ト為ス、以下皆此ニ倣ヘ

ラスト、安石、先帝ト之ヲ議ス、二年ニメ乃チ行テ、曲ニ盡サ、ルテシ、○章惇、韓縝罷ム、○王安石、卒ス、安石、金陵一在テ、常ニ福建子ト獨語ス、惠卿ヲ限テナリ、惠卿、安石ニ叛ク、惟章惇ノミ、終始叛カス、安石、又常ニ曰ク、新法ノ行、始終以テ行フ可シト為ス者ハ、曾子宣ナリ、始終以テ不可ト為ス者、司馬君實ナリト、○呂公著、右僕射タリ、文彦博、軍國重吏タリ、程頤、崇政殿ノ説書タリ、蘇軾、翰林學士タリ、呂惠

其像ヲ画メ云々
印ハ板印ナ

卿、鄧綰等ヲ竄貶ニ○司馬光相ト為テ、ハタヒ月ヲ際テ薨ス、太皇太后之ヲ哭メ慟ス、上モ亦感涕メ已マス、大師温國公ト贈ル、文正ト謚ス、光位ニ在ルトキ、遼人、夏人ノ使來ルトキ、必ス光カ起居ヲ問フ、而メ遼人、其遼吏ニ勅メ曰ク、中國、司馬ヲ相トス、切ニ吏ヲ生レ辺隙ヲ開クナカレト、卒スルニ及テ、京師ノ民、市ヲ罷メ、其像ヲ画メ、印メ之ヲ鬻ク、画工富ク致ス者アリ、葬ニ及テ四方ノ來リ會スル者

司馬君實画像ヲ
畫ク圖



之ヲ哭スル其親戚ヲ哭スルカ如シ
光、嘗テ晁無咎ニ語テ曰ク、吾人ニ過ルナシ、但平生ノ為ス所口、未ク嘗テ人ニ對メ言フ可ラサル者アラサルノミト、劉安世、光ニ一言以テ身ヲ終ルマテ之行フ可キ者ヲ問フ、光曰ク、其誠カト、安世、其從テ入ル所ヲ問フ、曰ク、妾語セサルヨリ入ルト○蘇軾、程頤、同經筵ニ在リ、軾、諧謔ヲ喜ム、而メ頤、礼法ヲ以テ自ラ持ス軾、每ニ之ヲ嘲侮ス、光ノ薨スルヤ、百官方ニ慶

〔慶〕禮云々、廢禮ハ、禮ナリ、宋史ノ、元祐元年九月、明堂ニ大享メ、神考ヲ以テ配ス、因テ天下ニ赦ス、百官、赦ヲ賀ス、是ナリ、通死市戲言ス、狂常ニ市ニ言ス、狂門人業ヲ受ル生テ門人ト曰フ

〔元〕豐神宗ノ年号〔散〕間散ナリ

礼アリ、夏畢テ往テ吊ハント欲ス、頤可カスメ曰久子、是ノ日ニ於テ哭スレハ、則チ歌ハスト、或人曰ク、歌ハ、則チ哭ヒスト言ハスト、軾曰ク、此狂死市ノ叔孫通、此礼ヲ制スナリト、頤怒ル、二人遂ニ隙ヲ成ス、門人朱光庭、買易、言官タリ、カメテ軾ヲ攻ム、傅堯俞、王巖叟、呂陶等、相繼テ論列ス、堯俞、巖叟ハ、光庭ヲ依ク、陶、軾ヲ依ク、是ノ時、元豐ノ大臣、散地ニ退ラル、皆怨ヲ含テ骨ニ入ル、陰ニ間隙ヲ伺フ、諸賢

悟ラス、方ニ自ラ黨ヲ分テ相攻ム、洛黨、川黨、朔黨アリ、洛黨ハ、頤ヲ以テ領袖ト為ス、光庭、易、羽翼タリ、川黨ハ、軾ヲ以テ領袖ト為ス、劉摯、王巖叟、劉安世ヲ以テ領袖ト為ス、而メ羽翼尤衆シ、未タ幾ハクナラスメ、頤罷ム、復召レス、之ノ久メ、軾モ亦罷ム、後再入リ、三タヒ入ル、皆久カラスメ出ツ、○呂公著、司空同平章軍國事ト為ル、呂大防、范純仁、左右僕射タリ、純仁ハ、仲淹ノ子ト以テ公

譏訕其詩云
矯忠名臣節
山、忠、言、真、節、上
元、間、鈞、堂、燕、沒
知、何、處、歎、思、思
君、倚、碧、綺、上、蓋
シ、唐、ノ、高、宗、上
元、中、疾、ヲ、以、テ
位、ヲ、武、后、ニ、遜
シ、ト、欲、ス、既、山
公、郝、止、ム、今、之
之、ヲ、思、テ、乃、チ、臺
ヲ、諫、ル、能、ハ、臺
矯、ル、ハ、武、ノ、自、
嶺、ヲ、過、ク、廣、ニ
入、ル、途、五、嶺、ヲ
過、ク、荆、棘、久、ク、
遠、ク、敗、メ、嶺、ヲ
過、ク、シ、交、章、上
交、章、上

著、尋、方、薨、ス、○知漢陽軍、吳處厚言ノ
漢陽軍、湖、蔡、確、安州、譚、セ、ラ、ル、日、
廣、ニ、居、ス、登、ル、詩、ヲ、作、テ、臺、諫
夏、中、ニ、車、蓋、亭、ニ、登、ル、詩、ヲ、作、テ、臺、諫
譏、訕、ス、ト、確、ヲ、論、メ、已、マ、ス、〔安州〕湖
蓋、亭、〔安州〕德、安、府、〔車、蓋、亭〕新州、〔安州〕屬、〔新州〕廣、東、
屬、呂、大、防、劉、摯、范、純、仁、王、存、等、以、為、
之、ク、宜、ク、嶺、ヲ、過、キ、死、地、ニ、置、カ、シ、
ヘ、カ、ラ、ス、ト、純、仁、カ、曰、ク、此、路、荆、棘、十
年、奈、何、ソ、之、ヲ、開、カ、シ、吾、曹、政、サ、ニ、免
レ、〔荆、棘〕之、ヲ、恐、ル、〔荆、棘〕之、ヲ、諍、ト、モ
得、ス、臺、諫、交、章、メ、純、仁、カ、確、〔蔡、確〕黨、ス、水

黨人、神宗ノ末
年、安石カ黨人
調停、和解ヲ謂
俗語、ナリ、當時ノ謂

一、番、俗、語、ナリ
猶、カ、コ、ト、キ、ナ
リ

ヲ、攻、ム、純、仁、遂、ニ、罷、ム、劉、摯、右、僕、射、ヲ
リ、大、防、摯、元、豐、ノ、黨、人、ヲ、引、キ、用、テ、以
テ、舊、怨、ヲ、平、ケ、ン、ト、欲、ス、之、ヲ、調、停、ト
謂、フ、蘇、轍、等、カ、メ、テ、其、不、可、ヲ、陳、ス、摯
罷、ム、蘇、頌、右、僕、射、ト、為、ル、頌、罷、ム、純、仁、
又、之、ニ、代、ル、○元、祐、八、年、九、月、宣、仁、聖
烈、太、皇、大、后、崩、ス、崩、ニ、臨、テ、上、ニ、對、メ、
大、防、純、仁、等、ニ、謂、テ、曰、ク、老、身、没、後、必
ス、多、ク、官、家、ヲ、調、戲、ス、ル、者、ア、ラ、ン、宜
ク、之、ヲ、聽、ク、ナ、カ、ル、ヘ、シ、公、等、モ、亦、宜
ク、早、ク、退、ク、ヘ、シ、官、家、ヲ、メ、別、ニ、一、番

社飯風土記 卷九
羊ノ肉ヲ以テ謂ス
其ノ餼ヲ調和ス
之ヲ盛リ以テ謂ス
相遺リ送ル以テ謂ス
敦故舊ノ情ヲ私
暱君臣ト曰フ
嗣君哲宗三子
徐王魏王二女
封邑未詳ナリ
皇太后元祐
年号政祐太
ク皇太后元祐

ノ人ヲ用シメント、左右ヲ呼テ問フ、
曾テ社飯ヲ賜出スルヤ否ヤト、因テ
曰ク、公等各去テ一匙ノ社飯ヲ喫メ、
明年社飯ノ時、老身ヲ思量セヨヤト、
后、政ヲ聽ク九年、天下稱メ女中ノ堯
舜ト為ス、外家ニ比セス、嗣君ヲ擁佑
スルノ故ヲ以テ、二子一女皆疎ラル、
姪公ヲ以テ天下ヲ御ス、當世ノ賢者
畢ク朝ニ集ル、君子ノ盛ナル、後世慶
曆、元祐ヲ以テ並ヘ稱ス、神宗、兵ヲ厭
フノ後ヲ承テ、民ト休息ス、西蕃ノ鬼

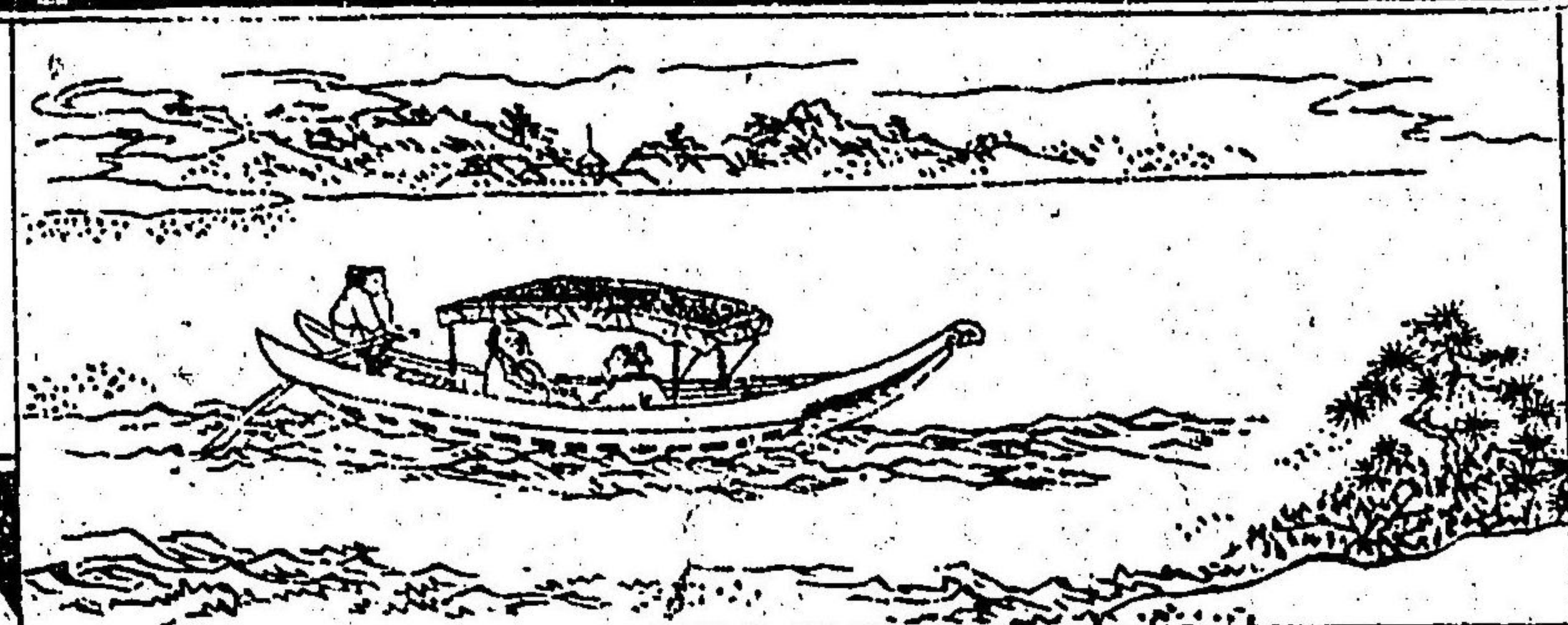
楊畏首トメ
大防ニ叛ク
畏ハ安石ノ
ナリ元祐ノ
メ罪ヲ得ル
恐テ意ヲ極
大防ニ附ク
防之ヲ信メ
シ密ニ畏カ
レフ助ルカ
メ、竟ニ畏
トメ、禮部
トメ、為ス
テ、畏大防
テ、首トメ
ノ法ヲ復ス
ヲ倡フ
ナリ熙豐
元豊ハ安石
政

章、邊將ノ為メニ擒獻セララル、釋メ
セス、以テ其部属ヲ招ク、夏國、其主素
常卒メ乾順立シヨリ、政乱、主幼シ
屢邊ニ寇メ、藩臣ノ礼ヲ失ス、皆強臣
之ヲ為シ、其ノ君民罪アルニ非ルヲ
以テ、師ヲ興テ、討伐スルニ忍ヒス、
諸路ニ詔メ、兵ヲ嚴メ自ラ備ルノ
○上、始テ政ヲ親ラス、侍郎楊畏首ト
メ、呂大防ニ叛ク、自ラ謂ス、迹ハ元祐
ト雖モ心ハ熙豐ニ在リト、入對メ、章
惇ヲ召シト乞フ、明年、紹聖ト改元ス、

偏重云々偏重
 或ハ古法ニ
 偏リ或ハ新法
 ニ偏ルニ喩フ
 ナリ言ハ新古
 ノ二法ヲ酌
 メ中道ヲ得テ
 之ヲ施行セハ
 則チ以テ弊ヲ
 救フ可キナリ
 司馬光カ姦邪
 云々博光カ姦
 法ヲ以テ姦邪
 ト為ス
 老ヲ告ル者惟
 韓維太子少師
 ヲ以テ致仕ス
 皆追貶云々或
 ハ追貶シ其官
 ラハ贈フ奪

大防罷、惇、右僕射ト為ル、純仁罷、惇ノ来ルヤ、道ニメ陳瑾ニ遇フ、惇、素ヨリ、其名ヲ聞ク、獨共ニ載シ、下ヲ請フ、訪フニ當世ノ務ヲ以テス、瑾カ曰ク、請フ乗ル所ノ舟ヲ以テ、喩ヲ為シ、偏重ナラハ、其行ル可シヤ、或ハ左シ、或ハ右シ、其偏一ナリト、惇、默然タリ、良久メ曰ク、司馬光カ姦邪、當先辨スヘキ、所ナリト、瑾カ曰ク、相公、誤レリ、此猶ヲ舟勢ヲ平ニセシト欲ス、而メ左ヲ移シ、以テ右ニ置クナリト、果メ

章惇陳瑾ト舟ニ乗ル圖



然ラハ、將ニ天下ノ望ヲ失ハントス
 ト、惇、既ニ至ル、漸ヲ以テ盡ク熙豐ノ
 法ヲ復ス、元祐ノ人ノ罪ヲ治スル、鹿
 日ナン、司馬光、呂公著、王巖叟、趙瞻、韓
 琦、孫固、范百祿、胡宗愈、司馬康等、已テ
 ニ死シ、及ヒ老ヲ告ル者モ皆ナ、追貶
 ノ贈ヲ奪フ、呂大防、劉摯、蘇轍、梁燾、范
 純仁、劉奉世、韓維、王觀、韓川、孫升、呂陶、
 范純礼、趙君錫、馬默、顧臨、范純粹、孔武
 仲、王欽臣、呂希哲、呂希純、呂希績、姚勛
 吳安詩、王份、張耒、龔補之、黃庭堅、賈易

文彦博久致仕年神宗老以請致仕師節斧節鉞度シテ回ノ得サ宗彦博其功英宗代ラ博カ功英宗代ラ輔サルヲ嘉メ使西鎮ノ節度使ヲ加シ今並ニ之ヲ羅ハ中官ニ在ル云々時ニ劉婕妤寵セテ后平礼セテ因テ成スル官中祀スル為

程頤、秦觀、朱光庭、孫覺、趙鼎、李之純、杜純、李周、蘇軾、范祖禹、劉安世、鄭俠等皆連ニ貶竄セラハ、文彦博、久ク致仕ス、降テ太子太保ト為ル、節鉞ヲ罷ム、尋テ薨ス、皇后孟氏ハ、太皇太后ノ選聘スル所ナリ、中官ニ在ル、五年ニ廢ス、章惇、蔡卞、太皇太后ヲ追廢セント請フ、太后向氏〔向氏〕神宗ノ母、大妃、朱氏〔朱氏〕神宗ノ妃泣テ諫ムルニ賴テ、上悟ル、惇、卞、堅ク施行ント請フ、上怒テ曰ク、卿等、朕カ英宗ノ廟庭ニ入ルヲ欲セザ

會フ、彦博久致仕年神宗老以請致仕師節斧節鉞度シテ回ノ得サ宗彦博其功英宗代ラ博カ功英宗代ラ輔サルヲ嘉メ使西鎮ノ節度使ヲ加シ今並ニ之ヲ羅ハ中官ニ在ル云々時ニ劉婕妤寵セテ后平礼セテ因テ成スル官中祀スル為

ルヤト、其奏ヲ地ニ抵ス○賢妃劉氏ヲ立テ、后ト為ス、右正言鄒浩、冊礼ヲ追停シ、別ニ名族ヲ選ント乞フ、詔メ浩ヲハ名ヲ除キ、勒停メ新州ニ羈管、浩、道、其友田晝過、別臨テ涕ヲ出、晝、色ヲ正曰、君、隱默、京師、官寒疾、遇汗セスハ、五日、死、豈獨嶺海外ノミ、能ク人ヲ死ナシヤ、願クハ君此舉ヲ以テ自ラ満スルナカレ、士ノ當ニ為スヘキ所ノ者ハ、未ク此ニ止ラサルナリト、○元符三年、上、薨ス、在位十五年、改元スル者、三

龍頭

史略詩解卷九

宋哲宗

五三

ノ羅ム寒疾ヲ得云
ル傷寒疾ヲ此舉
ヲ以テ云々畫
浩ヲ激厉スル
ナリ、滿ハ、足ナ
浪子俗ニ輕浮
浅率ニメ、意見
ナキ者ヲ言フ

ツ、曰ク、元祐、紹聖、元符、壽三十五、皇弟
立ツ、是ヲ徽宗皇帝ト為ス、
徽宗皇帝名ハ侔、神宗ノ第十一ノ子ナ
リ、初メ端王ニ封セラレ、哲宗崩ス、欽
聖憲肅皇太后向氏、宰執ヲ召メ、嗣ヲ
立ルヲ議ス、后、端王ヲ立ント欲ス、章
惇カ曰ク、端王ハ、浪子ノミト、曾布、躬
長シ、望見レハ、端王已テニ簾下ニア
リ、叱ソ曰ク、章惇、太后ノ處分ヲ聽ケ
ト王、簾ヲ出ツ、惇、惶恐メ、措ヲ失ス、王
位ニ即ク、太后ニ請テ、權ニ同ク軍國

〔處分〕處ハ、區處
ナリ、分ハ、分別
ナリ、三ハ、餘人
皆章惇カ志ヲ
得ル時ニ貶黜
スル者

ノ夏ヲ處分セシム、范純仁等、二十餘
人、並ニ收叙セラレ、龔夫、陳瓊、鄒浩、臺
諫ト為ル。○韓忠彥、右僕射ト為ル、忠
彥ハ、琦カ子ナリ。○文彥博、司馬光等、
三十三人、官ヲ追復ス。三十三人、文彥
劉摯、韓維、深、燾、司馬光、呂著、孫固、傅
堯愈、趙鼎、鄭雍、王巖叟、范祖禹、趙彥君、
錢總、顧臨、趙鼎、錫、李之純、呂大忠、鮮于
洗、孔武仲、姚勛、盛陶、趙鼎、孫覺、杜純、孔
文仲、朱光庭、李周、張茂則、高士英、孫升、
亦皆章惇志ヲ得ル時、追貶メ、贈ヲ奪
者。○太后、簾ヲ垂ル、半年ニメ、政ヲ
還ス。○章惇、罷ラル、尋テ、竄セラレ。○
韓忠彥、曾布、左右僕射タリ。○邢恕ヲ

〔瞬〕目動又瞬ト
曰フ

人ヲ射ル云々
杜甫前出塞ノ
詩ノ詞引テ以
テ惡ヲ去ル當
ニ其魁ヲ去ル
ニテ其魁ヲ去
ニテ其魁ヲ去

貶ス○蔡京、蔡卞ヲ貶ス、卞ハ、安石ノ
婿ナリ、是ヨリ先キ、臺諫莫夫、陳瓘、任
伯雨等、卞ヲ攻テ、其執政ヲ罷ハ、京、翰
林承旨ト為ル〔翰林承旨〕官ノ名、位、諸
學ノ上ニ在リ、東ノ第
一閣ニ居ル、大詔令、大廢置、丞相ノ密
畫、内外ノ密奏、皆專ラ受テ、專ラ對ス、
瓘、其日ヲ視テ瞬セザルヲ見テ、謂ク、
此人必ス大ニ貴カラシ、然レ其樞
タル精神ヲ以テ、敢テ太陽ニ抗ス、他
日志ヲ得ハ、必ス天下ノ患ヲ為サシ
ト、瓘、人ニ語テ曰ク、人ヲ射ハ、先ツ馬
ヲ射ヨ、賊ヲ擒ニスルハ、先ツ王ヲ擒

〔建中靖國〕四字
ノ年号

ニセヨト、連疏メ之ヲ攻ル甚タカム、
京罷ム、尋テ亦御史陳次升等カ言ヲ
以テ、卞ト俱ニ貶ス○上ノ意、專ラ熙
豐ノ政ヲ緜述ト欲ス、而メ曾布、徽
熙豐、元祐ヲ兩存スルノ意アリ、故ニ
建中靖國ノ初メ、嘗ニ畧章惇、蔡卞カ
為テ所ヲ變ス、既ニメ布、上ノ旨ヲ迎
テ、正人任伯雨、江公望、陳瓘等、朝ニ容
ラレズ、小人各黨アリト雖モ、更迭ニ
出入ス、意向ハ、則チ同ク安石ヲ祖ト
スルノミ○遼主弘基殂ス、道宗ト号

蘇 豆

十八史略言解卷九

宋徽宗

五十五

女真遼二臣
避、興宗ノ諱ヲ
テ、女真ト改メ

生女真大金史
混同江ノ熱

女真ト曰フ、其
契丹以テ居ル
ルヲ北ニテ居ル
者、生女真ト
曰フ、亦契丹
臣トシテ、完顔
トシテ、漢王ト
シテ、漢王トシ
テ、漢王トシテ

ス、孫延禧立ツ天祚ト号ス、女真ノ阿
骨打立ツ、女真、本ノ名ハ朱里真、肅慎
ノ遺種ニ、而メ渤海ノ別族ナリ
ニ、渤海、本トシテ、靺鞨ノ先宗先
水ノ遺メ、粟末トシテ、靺鞨ノ先
渤海郡王トシテ、靺鞨ノ先宗先
号ヲ去テ、契丹トシテ、渤海ノ先
五代ノ時、契丹トシテ、渤海ノ先
ク、本姓ハ拏辰、韓、渤海ノ先
ル、挹婁、元魏ニ謂ユル、勿吉、唐ニ謂ユ
ル、靺鞨、元魏ニ謂ユル、勿吉、唐ニ謂ユ
韓、元魏ニ謂ユル、勿吉、唐ニ謂ユ
元氏、北魏ニ謂ユル、勿吉、唐ニ謂ユ
相統ヘス、太中祥符ヨリ以後、絶テ中

國ト通セ、生女真ト云者アリ、其類
猶ヲ繁シ、其酋ヲ巖版ト曰フ、孫アリ、
楊哥太師ト曰フ、遂ニ諸部ニ雄タリ、
或人曰ク、楊割ノ先、新羅ノ人、完顔氏
ト、女真之ニ婁スニ女ヲ以テス、
夷リニ子二人ヲ生ム、長ヲ胡來ト曰フ、
三世ニ傳テ、楊割ニ至ル、阿骨打ハ其
子ナリ、人ト為リ、沉毅ニシテ、大志アリ
○建中靖國、一年ニシテ、崇寧ト改ム、韓
忠彦、罷ム、再ヒ司馬光等カ官ヲ追奪
ス、元祐ノ黨人ヲ籍ス、○曾布罷ム、蔡

雙花首連異ニ
シ、雙花ト曰フ
禽色禽獸女色
海東青五國ノ
名鷹ヲ出ス
海東ヨリ來ル
者之ヲヨリ
ト謂フ女真其
隣云々金史ニ
女真甲馬教百
人ヲ發シ、五國
ノ界ニ至リ、巢
穴ニ即テ、此禽
爭戰メ即テ、此禽
得争戦メ即テ、此禽

成、夏ヲ用ユ、師成、專ラ應舉ヲ務ム、以
テ上ノ心ヲ盪ス、勢焰熏灼ス、威福ヲ
中ニ竊ム、童貫、專ラ遼ヲ開クヲ務ム、
夏ヲ外ニ生ス、皆蔡京父子ト相表裏
ス○女真ノ阿骨打、重和元年戊戌ヲ
以テ、帝ト稱ス、初メ遼主天祚刑賞僭
濫メ禽色ニ荒ム、歲ニ名鷹海東青ヲ
女真ニ索ム、女真其隣ノ東北五國ト
戰鬪シ、乃チ能ク此禽ヲ獲テ、以テ猷
ス〔五國〕女真ト相去千里、五ハ其國ノ
里怕忽咬、其擾ニ勝ヘス、阿骨打、遂ニ叛

〔將〕海州ノ刺史
高仙壽

ク、混同、江東ノ寧江州ヲ攻陷ル〔混同、江東ノ寧江州〕
威平府、長白山ヨリ出シ、下流未詳ニ
カナラズ、〔寧江州〕契丹ノ東北ノ隅ニ
リ、遼將ヲ遣シ、之討テ敗ル、又中京上
京、長春、西遼、四路ノ兵ヲ起メ、並ニ進
ム〔中京〕遼陽ニアリ、今ノ二寧府獨沫
△〔上京〕長春西遼未詳ナラス、
流河ノ一路、深ク入り大敗ス〔涑流河〕
詳ナラス、一路ハ、即チ四路ノ一、独路
ノ兵ヲ涑流河ニ至ル者ヲ謂フナリ
三路、皆退ク、女真悉ク遼東界ヲ虜ス、
熟女真、鐵騎益衆シ、天祚親征ノ復々
大敗ス、女真勝ニ乘シ、渤海、遼陽、五十
四州ヲ并ス、又遼西ニ度テ、五州ヲ降

〔号〕ヲ建ツ号ハ
 帝号
 大金阿骨打ノ
 居ル所ハ金水
 ノ上リナリ、因
 テ金ノ堅固ヲ
 取テ、國ヲ建テ、
 大金ト号ス、金
 大、一ト出ス、其
 水、一ト出ス、其
 ノ水、一ト出ス、其
 國語、金ト謂テ、
 按、出虎ト曰テ、
 覽要ニ惟金斐
 セス、環レス、金
 ノ色、白、完、顔、白
 ヲ尚フ、況レテ
 ヲ居ル所、按、出
 虎水ノ上、按、出

ス、阿骨打、遂ニ号ヲ建テ、是ト改名シ、
 國ヲ大金ト号ス、明年遼ノ上京ヲ破
 ル○高麗、來テ、鑿ヲ求ム、上、二鑿ヲ遣
 メ、往カシム、還テ奏ス、實ハ鑿ヲ求ル
 ニ非ス、乃チ彼中國、女真ト契丹ヲ圖
 ラントスルヲ知テ、謂フ、苟シ契丹ヲ
 存セハ、猶ヲ中國ノ為メニ遣ヲ擇ニ
 足ニ、女真ハ狼虎ナリ、交ル可ラス、宜
 ク早ク之カ為メニ備フヘシト、上、之
 ヲ聞テ樂マズ○上、嘗テ都市ノ酒肆
 妓館ニ微行ス、正字曹輔上言ス、郝州

上都市ノ酒肆妓館ニ微行スル圖



ニ編管セラル○童貫、崇寧ノ間ヨリ
 王韶ノ子ト兵ヲ領シ、湟州ヲ復ス〔湟
 州〕
 甘肅ニ責ニ邊吏ヲ措置スルヲ任ス、
 屬ステニ郝州、廓州ヲ復ス〔廓州〕甘肅
 貫、遂ニ節ヲ建テ、宣撫ト為ル〔宣撫〕宣
 リ、職官志ニ、宣撫使ハ、常ニ置カス、威
 靈ヲ職宣布シ、辺境ヲ撫綏シ、及ヒ將帥
 スル統帥ノ吏ヲ軍旅ヲ督視既ニメ志ヲ西
 邊ニ得タリ、遂ニ謂フ、北邊モ亦圖ル
 可シト、政和ノ初メ乃チ自ラ請テ、使
 ヲ奉メ遼國ヲ覘フ、燕人馬植ト云者
 アリ、燕ヲ滅スノ策ヲ陳ス、貫、挾テ以

〔漢人〕高藥師

〔使ヲ遣ス〕李善

〔京貫〕蔡京、童貫

呼慶〔姓名〕

テ歸ル、姓名ヲ趙良嗣ト更ム、燕ヲ復スルノ議、遂ニ起ル、政和ノ末、漢人ノ海ニ泛テ來ルアリ、具ニ女真ノ遼ヲ攻ル莫ク言フ、重和ノ春、乃チ蔡京、童貫カ議ヲ用ヒ、馬政ヲ遣メ、海道ヨリ阿骨打カ居ル所ノ阿芝川、凍流河ニ至ラシム、與ニ共ニ遼ヲ攻ント議ス、阿骨打、遂ニ使ヲ遣メ來ラシム、宣和ノ初メ、京ニ至ル、京貫ニ詔メ、諭スニ夾ニ攻テ、燕ヲ取ルノ意ヲ以テス、軍校呼慶ヲ差メ、其使ヲ送ラシム、海道

ヨリ國ニ歸ル、是歲王黼相ト為ル、力テ遼ヲ攻ルノ策ヲ贊ス、及ヒ呼慶復タ金ノ使ト來ルニ及ヒ、時ニ阿骨打、上京ニ在リ、遂ニ良嗣ヲ遣メ往カシム、約スラク、金國ハ、遼ノ中京ヲ取り、本朝ハ燕京ヲ取ント〔燕京〕即燕州、歲幣遼ニ與ルノ數ノ如ケント、良嗣カ曰ク、燕京一帯ナレハ、則チ西京ニ併テ是ナリト、〔西京〕即大同府、金主モ亦之ヲ許ス、札ヲ以テ良嗣ニ付ス、期スルニ女真ノ兵ハ、平地松林ヨリ古北ニ趨キ、南兵ハ

白溝ヨリ夾攻ト云ヲ以テス〔古北〕関
 北ニ在リ〔白溝〕涿州ノ南ニアリ、安肅
 ナ去ル十五里、亦巨馬河ト名ツク、宋
 遼人ト界ヲ分ツ処、良嗣歸ル、馬政復
 源流、未タ詳ナラス、
 タ子擴ト國書ヲ持シ、往テ彼此ノ兵
 関ヲ過ルヲ得サルヲ訂正ス、未タ幾
 ナラス、金ノ使復來ル、又國書ヲ以テ
 就テ其使ニ付シ、國ニ歸ラシム、時ニ
 淮南、京西、河北、江南、相繼テ盜起ル、山
 東ノ宋江、方ニ招安ニ就ク、睦ノ寇方
 臘、連ニ浙郡ヲ陷ル〔睦〕州、江浙ニ屬中
 都、為メニ震フ、童貫、甫メテ方臘ヲ平

ケテ、而メ北夏作ル、金人、師ヲ悉メ遼
 ヲ度リ、中京ニ趨ク、之ヲ攻陷ル、中京
 ハ、故ノ奚國ナリ、遂ニ兵ヲ引テ、松亭
 関ニ至ル〔松亭関〕景州、宋ト各関ヲ過
 サルノ約アルヲ以テ止ル、兵ヲ引テ
 其西ヨリ過ク、遼主、先ニ已テニ引避
 ル、或ハ言フ、金ノ前鋒將ニ至ントス
 ト、遼主、震警ノ亟ニ雲中ニ奔ル、夾山
 ニ入ル〔雲中〕郡ノ名、時ニ燕王淳親王
 燕ヲ守ル、蕭幹、淳ヲ立テ、主ト為ス、
 宋ノ童貫、蔡攸、師ヲ帥テ東路ヨリ白

同知府同知八通
知府同知八通
考同知八通
府同知八通

其神俗謂テ二
郎神ト曰フ

音禁音アツテ
網ル、ヲ禁ス
結山、結
テ山ト為ス
樂倡優ノ樂
難ヲ養ヒ其
闘ヲ見ル撃
革ヲ以テ之ヲ

歸ス〔景〕河東貫攸、燕ニ入ル、燕ノ金帛
子女、職官、民戸、金人、帝ヲ卷ク如クニ
メ東ス、得ル所ハ空城ノ三、貫攸、歸ル、
王安中ヲ以テ、燕山府ニ知クシム
〔燕山府〕詹度、郭藥師、同知クシリ〔詹度〕
即チ燕京、星アリ月ノ如シ、徐々ト南行ス、而
メ落ツ、光人物ヲ照ス、月ト異ルナシ
○神保觀ヲ修ス、其神、都人素ヨリ之
ヲ畏ル、傾城ノ男女土ヲ負テ以テ獻
ス、名ツケテ獻土ト曰フ、又鬼使ヲ飾
作シ、土ヲ納ル、者ヲ催スアリ、上モ

為物ヲ以テ
擊打メ以テ
ト為ス、今通
之ヲ毬子ト
フ電母三餘
筆呼テ雷公
ヲ呼テ雷公
母ト為ス、亦
ツク、所アリ
ニ震ヲ雷ト為
シ、離ハ長男
ス、震ハ長男
ナリ、而メ雷
ノ陽氣ヨリ出
ツ、故ニ俗ニ
公ト云フ、離
中女ト為ス、
ナリ、而メ地
ノ陰氣ヨリ出
ツ、故ニ電母ト

亦徽服メ之ヲ觀ル、後數日、音アツテ
禁ス○京師、河東、陝西、地震ス、宮中殿
門、搖動メ且ツ聲アリ、蘭州ノ草木没
入ス、山下ノ麥苗乃チ山上ニ在リ○
全國、城郭宮室ナレ、契丹ノ舊礼ヲ用
ユ、結綵山ニ如テ、倡樂ヲ作ス、闘雞擊
鞠ノ戲、中國ト同シ、但衆樂ノ後ニ於
テ、舞女數人ヲ飾シ、兩手ニ鏡ヲ持シ
ハ電母ニ類ス、其國、茫然クシ、皆緩給
メ以テ居ル、是ニ至テ、方ニ大屋數千
間ヲ營シ、尽ク中國ノ為ス所ニ倣フ

詔札宋朝ノ賜
ヲ所ノ手詔ヲ
得ルナリ
曲ヲ歸ス宋ノ
理曲ヲ責ム

ス〔遼〕河東燕ヲ得テ平州ヲ得タレハ
則チ関内ノ地蕃漢雜リ処テ而ノ燕
保チ難シト為ス遼ノ張鼓平州ヲ守
ル金已テ二人ヲ遣メ鼓ヲ招ク鼓曰
ノ契丹凡テ八路今特ニ平州存スル
ノミ敢テ異志アラシヤト〔八路〕名号
ス既ニメ乃チ平州ヲ以テ南附ス宋
遼ニ之ヲ納ル趙良嗣ガ諍テ以為ク
必ス金兵ヲ招シト金人ノ謀知ル即
チ平州ヲ襲テ之ヲ陷ル宋ノ詔札ヲ
得タリ是ヨリ曲ヲ歸ス檄ヲ累テ鼓

擒ニ就ク金削
テ天祚ヲ封メ
王ト為シ長白
山ニ送リ城ヲ
禁テ之ニ居ラ

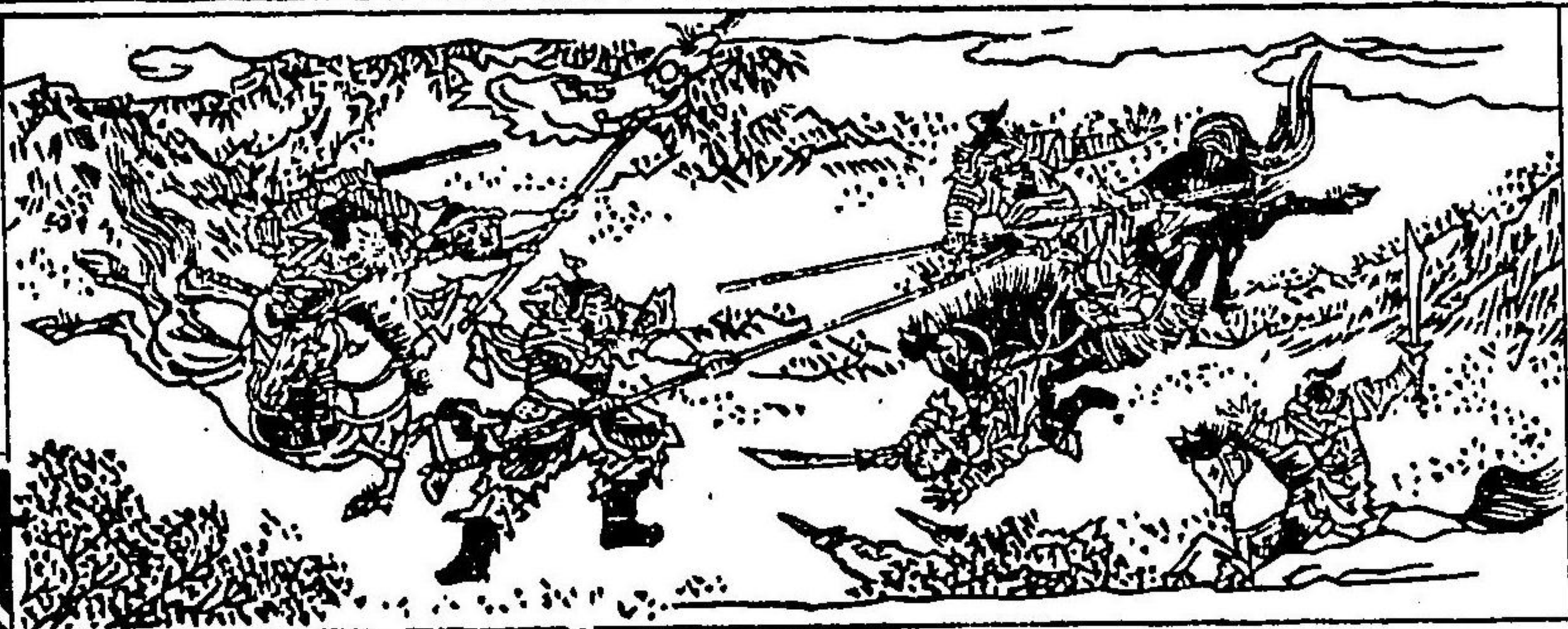
ヲ取ル已ヲ得スメ王安中ニ命メ之
ヲ縊ル而メ其首ヲ函ニ送ル未ク
幾ナラスメ金ノ太子翰離不己テニ
平州路ヨリ將ニ燕ニ入ントス宋方
ニ且ツ人ヲ遣シ密ニ天祚ヲ誘テ来
リ降ラシム童貫ヲ以テ西河燕山路
ヲ宣撫セシム〔西河〕河北將ニ天祚ヲ迎
ントス金人方ニ退ク天祚陰夾山ニ
入ントス得可ラス是ニ至テ衆ヲ領
メ南ニ出ツ遂ニ金人ノ為メニ敗ラ
ル擒ニ就ク契丹阿保機ヨリ天祚ニ

童太師童貫太師ト称ス

觀察唐ノ乾元ノ初メ採訪使ヲ改テ觀察処置使ト曰フ即今ト提刑按察使ト此職ヲ孫翊兼ス

至ル九世ニメ亡フ均王貞明二年ヨリ始テ元ヲ建テ是ニ時ニ宣和七年乙巳ノ歲ナリ、是冬、金ノ翰離不、粘罕道ヲ分テ南ス、翰離不、燕山ヲ陥ル、郭藥師、之ニ降ル、金ノ兵、長驅ノ進ム、郭藥師、為メニ前驅ス、童貫、太原ヨリ逃歸ル、粘罕、太原ヲ圍ム、太原ノ帥、張孝純、歎メ曰ク、平時ニハ、童太師、多少ノ威重ヲ作ス、乃チ畏怯スル此ノ如ク、身、大臣ト為テ、難ニ死スル能ハス何ノ面目アツテ、天下ノ士ヲ見ント、孝

張孝純孫翊決戦ノ圖



純冀景ヲ以テ、関ヲ守ル、知朔寧府孫翊来リ救フ〔朔寧〕府、山西ニ屬ス、即チ朔州ニ兵二千ニ満タス、金人ト城下ニ戦フ、張孝純曰ク、賊已テニ京ニ在リ、敢テ門ヲ開カス、觀察忠ヲ尽シ國ニ報ス可シト、翊カ曰ク、但恨クハ兵少キノミト、乃チ復引キ戦フ、金人大ニ沮ム、再ヒ兵ヲ益ス、力敵スル能ハス、翊、コ、ニ死ス一騎ノ肯テ降ルナシ、王黼先ツテ一年已テニ罷ラル、而メ自時中、李邦彦、並ニ相タリ、皆鄙夫トリ、金ノ兵来

表段凡ツ衣、表
 アリ、裏アリ、段
 ハ、幣帛ナリ、一
 說、縉帛ノ用テ
 表、衣ニ為ク、ル
 可キ者ヲ言フ

ス○白時中罷ム、李邦彦、張邦昌、相ト
 為ル○春正月、幹離不、京師ニ抵ル、是
 ヨリ先キ、朝廷、李綱ヲ遣メ、和ヲ求ム、
 幹離不、鄴ヲ携テ、以テ京城ヲ攻ム、克
 タス、乃チ王洵ヲ遣ル、鄴ト借ニ来ル、
 邦彦等、皆和ヲ主トス、惟綱ノミ戰ニ
 ト欲ス、上、邦彦ノ計ヲ是トス、鄭望之
 ヲ遣メ、出テ使セシム、未タ至ラヌ
 王洵ニ遇フ、與ニ俱ニ入テ見ユ、又李
 稅ヲ遣メ、出テ使セシム、稅、又金使ト
 借ニ来ル、金人、師ヲ擣フ、金五百萬、銀

康王欽宗ノ弟
 構、善、箭、強、ト
 受ル、善、中、破
 日、矢、前、矢、破
 後、矢、謂、ナリ
 甫、王、徽、宗、弟
 五、子、種、師、道、等
 云、々、師、道、同
 鎮、陝、西路、姚
 平、仲、鄜、延、張
 俊、韓、射、中、環、慶
 ノ、汪、洋、馬、遷、鳳
 河、ノ、姚、古、秦、鳳
 ノ、種、師、中、及、求
 折、彦、質、折、可、求
 等、勤、勤、王、兵、王、求
 = 勤、勤、王、兵、王、求
 フ、割、ル、俗、謂、テ、寨
 フ、立、ル、俗、謂、テ、寨
 割、ト、曰、ク、困、乏、ク
 侯、ツ、其、糧、乏、ク

五千万両、牛馬万頭、表段百万匹、中山、
 河間、太原、三鎮ノ地二十餘郡ヲ割ヲ
 需ム、且ツ宰相親王ヲ質ト為ント欲
 スト、張邦昌ヲメ康王ニ副トメ其營
 ニ如カシム、金國ノ太子、康王ト同ク
 射ル、連發三矢、皆善ニ中ル、金人謂フ、
 是將家ノ子、親王ニ非スト、遣テ歸ス、
 更テ甫王ヲ請テ質ト為ス、种師道等
 諸路勤王ノ兵至ル、師道奏ス、京城周
 回八十里、城ノ高サ數十丈、粟數年ヲ
 支フ、宜ク城内ト寨ヲ割シ、拒守シ困

兵困ムフ俟ツ
〔搢〕掩ナリ、圍ニナ
リ〔綴〕帛ヲ以テシニ
誓書ヲ以テシニ
詐テ三鎮ヲ復シ
シ其國ニ帛ヲ復
綴ス

ヲ俟テ之ヲ擊ツヘシト、綱モ亦奏ス、
金、孤軍ヲ以テ深ク入ル、虎ノ搢ヲ投
スルカ如シ、與ニ一旦ノ力ヲ角フ可
ラス、綴シ歸ラシメテ、之ヲ擊ハ必勝
ノ計ナラント、上、之ヲ然トス、而メ李
邦彥、吳敏等、專ラ和ヲ主トス、議論一
ナラス、虜、汝カ議論定ルノ時ヲ待ハ、
我已テニ河ヲ渡ルノ譏アルヲ致ス
ト、未タ幾クナラスメ、統制官姚平仲、
宵金ノ營ヲ攻ム、克タス、〔統制官〕軍政ヲ掌トル、職官志一、舊レハ、師ヲ出スレハ、則チ一人
討ス、諸將相統志一、舊レハ、師ヲ出スレハ、則チ一人

三鎮中山河間
太原金ヲ括ス
王孝迪議メ、京
吏ノ在ル軍民官
取ス

ヲ拔テ都統制ト為メ、以テ之上大ニ
ヲ総テ、後チ統制官ト為ス
驚懼シ行營ヲ廢シ李綱ヲ罷メ、以テ
金人ニ謝ス、大學生陳東、及ヒ都人數
万、闕ニ伏メ、復綱ヲ用ヒニヲ乞フ、吉
ヲ得テ右丞ニ復ス、守禦使ニ充ツ、衆
乃チ散ス、金ノ使復來ル、乃チ三鎮ヲ
割ク詔書ヲ以テ使ヲ遣メ持テ往シ
△、時ニ京ニ在ル金ヲ括ス、僅三十餘
万兩、銀四百万兩ヲ得タリ、藏蓄已テ
ニ空シ、金人、京城ヲ圍ム、凡テ三十
日、地ヲ割ク詔ヲ得テ、金幣ノ數足ル

ヲ俟ラスメ退ク、种師道、河ニ臨テ之ヲ要撃セシメ、我勤王ノ師ハ二十餘万、其半ハ渡ルヲ縱メ之ヲ撃タハ、必ス勝ント、邦彦等從ハス、惟三鎮ニ詔メ、仍テ堅ク守テ割カス。○京師、圍ヲ受ル時、梁師成、已テニ誅セラル、是ニ至テ、蔡京ヲ僭州ニ竄ス（僭州、南海ニアリ、今、安寧府ニ在リ）、潭ニ至テ死ス、年八十、蔡攸、万安軍ニ竄セラル（万安、軍南尋テ詔アリ、所ニ即テ之ヲ斬ル、董貫モ、亦遠ク竄

〔真〕古ノ粟ノ字

セラル、追テ南雄ニ斬ル（南雄、廣東ニ屬ス）○李邦彦罷ム、張邦昌、吳敏並ヒ相タリ、邦昌罷ム、徐処仁相タリ、処仁敏罷、唐恪相タリ、恪罷ム、何臬相タリ○上皇、京師ニ歸ル、數月ニメ、金ノ兵復タ至ル、幹離不、東路ヨリ真定ヲ陷ル（真定、河北ニ屬ス、長驅メ先京師ニ抵ル、粘罕、西路ヨリ隆德、太原府、汾沢州、平定軍、平陽府、河南府、河陽府、鄭州、懷州ヲ陷テ、京師ニ抵ル、（平定軍、山西ニ屬ス、懷州、河東ニ屬ス、郡、張叔夜等、兵ヲ統テ、關ニ

六甲ノ法其法
七千七百七十
七人ヲ用ニ能
否ヲ問フナリ
但年命ノ六甲
ニ合フ者ヲ擇
フ甲子甲寅甲
辰甲午甲申甲
戌ノ如シ遁甲
ノ法

赴ク、唐恪、耿南仲專ラ和議ヲ主トス、
曰ク、今百姓困匱ス、數十万ヲ城下ニ
養ハ、何ヲ以テカ之ニ給セント、乃
チ各道ノ兵ヲ止テ、動ヲ得セシムル
ナカレト、京師、十一月ヨリ、圍ヲ受ク、
凡ソ四十日、卒郭京ト云者アリ、言ク
能ク六甲ノ法ヲ用ヒハ、粘罕、幹離不
ヲ生擒セント盡ク守禦人ヲメ城ヲ
下ラシメ、獨城樓ノ上ニ坐ス、親兵數
百ヲ以テ、自ラ衛ル、俄頃ニメ金人鼓
譟メ進ム、京衆ヲ紹テ曰ク自カラ城

種師道カ言是
ヨリ先キ金人
去ル師道之
ヲ要撃セント
請フ、徒ハ人
ク、異日必ス
患ヲ為メト、
至テ果メ然

〔齋〕説文ニ
肉塊一ニ曰ク、
切

ヲ下リテ法ヲ作スヘシト、因テ餘兵
ヲ引テ南ニ遁ル、虜兵城ニ登ル者、纔
ニ四人、衆皆披靡メ大ニ潰ユ、上、城
陷ヲ聞テ慟哭メ曰ク、朕、種師道カ言
ヲ用ヒス、以テ此ニ至ルト、時ニ師道
前ツテ、一月ニ卒ス、護駕ノ人、猶ヲ万
餘アリ、馬モ亦數千、張叔夜、連戰四日、
其貴將一人ヲ斬リ、駕ヲ護シ、圍ヲ突
出ント欲ス、上、和議ノ定ラサルニ惑
テ、士卒号哭ノ散ス、虜ノ使劉晏、上ニ
請テ、城ヲ出テシム、都民爭ヒ入り、齋

文 頁 宋 欽 宗 七 十二

二元帥幹離不粘罕

郊元帥復帝
金營至ル
請フ

メ之ヲ食フ、何處、都民ヲ率テ、巷ニ戰
ント欲ス聞ク者、争奮ス、金人、是ニ由
テ、兵ヲ飲テ、下サス、惟地ヲ割テ、金幣
ヲ責タルノ和議ヲ以テ辞ト為ス、以
テ戰守ノ計ヲ誤ル、侍郎耿南仲カテ
和ヲ議スルヲ主トル、上、以為ク然ト、
遂ニ其計ニ墮ル、二元帥、上皇ト相見
ント請フ、上、曰、上皇驚憂已ニ病、朕當
ニ自ラ往クヘシト、遂ニ青城ニ如テ
之ヲ見ル、(青城)虜ニ宿メ返ル、明年春、
復上ニ請テ郊ニ出テシム、續テ逼テ

帝編徐度カ却
和ノ間始テ周
采テ而メ公稱
郡主ト曰ク族
曰ト曰ク族

上皇ヲ出サシム、張叔夜、諫テ曰ク今
上一タヒ出テ、歸ラス、陛下再ヒ往
ク可ヲサレハ、臣當ニ精兵ヲ率勵シ、
駕ヲ護メ以テ出ツヘシ、縱虜騎追至
ルモ、臣決ノ死戰セシ、或ハ僥倖ス可
シ、若シ天、祚セスンハ、封疆ニ死セシ、
猶ヲ生ナカラ、夷狄ニ陷ラシヤ
ト、上皇、藥ヲ飲ント欲ス、范瑄ノ為メ
ニ奪ハル、上皇ニ逼テ宮ヲ出テシム
皇后、太子、親王、帝姬、皇族、前後三千餘
人、悉ク軍前ニ赴ク、城中ノ子女、金帛

往未云々往來
 以一更ヲ異姓
 以テ贊メ至ナル
 者、吳、升、莫、儔、王、時
 通、上、皇、以、下、出
 徐、秉、哲、王、時、確
 人、ハ、青、瓊、ナ、ス、リ
 者、ハ、范、瓊、ナ、ス、リ

宝玩、車服、器用、圖書、百物、括練メ公私
 上下俱ニ空シ、然ノ後ニ金主ノ詔書
 ヲ宣メ、異姓ヲ選立ス、遂ニ前ノ太宰
 張邦昌ヲ冊メ、楚帝ト為ス、宋ノ二帝
 及ヒ皇妃太子宗戚ヲ以テ北ニ歸ル、
 金人亦ニ在ル、凡ソ七ヶ月ヲ閱テ
 去ル、始至ルトキ張叔夜、嘗テ力戦ス、
 餘皆和ヲ主トス、以テ吳、升、莫、儔、王、時
 雍、徐、秉、哲、范、瓊、等ニ至マテ往來メ、上
 皇以下ヲ逼逐シ、郊ヲ出シメ、議メ異
 姓ヲ舉ス、上ノ青城ニ在ルニ方テ、逼

李若水大呼奮罵圖



テ御服ヲ易シム、時ニ惟李若水抱持
 メ、大ニ呼ヒ奮罵ル、金人刀ヲ以テ、其
 頤ヲ裂キ、其舌ヲ断テ、而メ後ニ之ヲ
 棄ス、相謂テ曰ク大遼破ルトキ義ニ
 死ス者十數、今南朝惟李侍郎一人ノ
 ミト、然レモ一時憤死スル者、甚タ衆
 シ、金人知ラサルナリ、吳革、衆ヲ結テ
 二帝ヲ劫還セント欲ス、范瓊力為ニ
 誘殺セラル、何、東、孫、博、張、叔、夜、秦、檜、司
 馬、朴、皆、爭、論、メ、趙、氏、ヲ、存、立、セ、ン、ト、乞
 フ、金人、之ヲ驅テ上ニ從テ北行セシ

ム、叔夜、粟ヲ食ハス、惟湯ヲ飲ム、界河
 ラ過テ死ス、(界河)霸州ニ出ツ、東ノ海ニ入ル、東ノ海ニ入ル、泉、燕ニ至
 テ亦食ハスメ死ス、京城危急ノ時ニ
 當テ、四方勤王ノ師至ル者、皆詔メ止
 テ進マサラシム、和議ヲ妨^{サカ}シラテ恐ル、
 金人ノ退ニ訖^ハテ、未タ嘗テ兵ヲ交^ハ
 ヘス、上、在位二年ナラスメ國破ル、改
 元スル者一ツ、曰ク靖康、弟康王、南京
 ニ立ツ、(南京)即チ是ヲ高宗皇帝ト為
 ス

冲冠嶺著十八史略譯解卷九終

